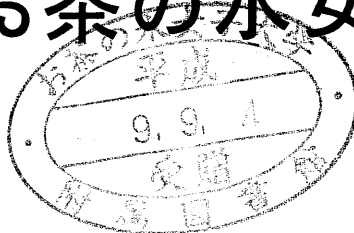


# お茶の水女子大学学報



平成 9 年 7 月 1 日

お茶の水女子大学庶務課

## 目 次

◇学 事 .....	2
◎平成10年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）学生募集要項 .....	2
◎平成10年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）外国人留学生学生募集要項 .....	23
◎平成10年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）学生募集要項 .....	33
◎平成10年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）外国人留学生学生募集要項 .....	63
◎平成10年度お茶の水女子大学生活科学部第3年次編入学学生募集要項 .....	77
◎学位授与 .....	79
◇人 事 .....	80
◇諸 報 .....	83
◎研 修 .....	83
◎海外渡航 .....	84
◎名誉教授の称号授与 .....	86
◇日 誌 .....	92

# 学 事

平成10年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）  
学 生 募 集 要 項

## 1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較文化学専攻	19名	実施しない	平成10年3月2日～4日
人間発達学専攻	13名	平成9年9月24日～26日	
人間環境学専攻	9名		
複合領域科学専攻	13名		

## 2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成10年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

## 3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9 月 入 試	3 月 入 試
出 願 期 間 ※	平成9年 8月27日（水）～9月2日（火）	平成10年 2月2日（月）～2月6日（金）
言 語 試 験	9月24日（水）	3月2日（月）
口 述 試 験	9月24日（水）～9月26日（金）	3月2日（月）～3月4日（水）
合 格 発 表 ☆	10月18日（金）	3月12日（木）

※ 土曜日・日曜日は、願書受付は行わない。

受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1）「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2）出願資格（3）に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試 : 平成9年8月20日（水）～ 8月25日（月）  
3月入試 : 平成10年1月26日（月）～ 1月29日（木）

注3）口述試験は、本学で指定する日時とする。

#### 4. 出願手続・試験時間割・試験場所・選考方法

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

#### 5. 検定料、入学料及び授業料

検 定 料            30,000円   〔平成10年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科修了見込者は不要〕

入 学 料            275,000円   〔平成10年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科修了者は不要〕

授 業 料            469,200円（年額）

注1）検定料については、出願手続の際に納付すること。また、郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。

注2）出願資格（3）に該当する者についての検定料の納付手続きは、本学からの出願資格認定通知書を受理した日から一週間以内に行うこと。

#### 6. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室（下記の電話番号）に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

#### 7. 入学手続

- (1) 入学手続関係書類は、平成10年3月中旬に郵送する。なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

願書受付場所： お茶の水女子大学 人間文化研究科棟1階事務室

平成9年6月

お茶の水女子大学  
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
TEL (03) 5978-5821~2

比較文化学専攻

1. 募集人員 19名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨（修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6部 2,000字以内、横書き、A4版用紙3枚（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研究計画書	
	<p>6部 1,000字前後、横書き、A4版用紙2枚におさめること。</p>	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
6	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

3. 試験時間割及び試験場所

試 験 科 目	【 言 語 試 験 】	【 口 述 試 験 】
試 験 日 時	平成10年 3 月 2 日 (月) 10:30 ~ 11:50	3 月 2 日 (月) 13:30 ~ 3 日 (火) 4 日 (水) 10:00 ~
文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座 異文化交流論講座	英語・独語・仏語・中国語 から1言語を選択	主論文及び研究計画
科学文化論講座	英語	

注1) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。
2. 辞書の使用は、認めない。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査（言語試験、口述試験）及び出願書類を総合して行う。

人 間 発 達 学 専 攻

1. 募集人員     13名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。 あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、それを審査論文（主論文）とすることができる。</p> <p>※ 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨 （修士論文に相当するものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
6	返 信 用 封 筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 5 0 円切手を貼付すること。

注 1) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。

注 2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に 1 組ずつ左肩をホッチキス止めし、6 部をクリップでまとめること。

注 3) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書（本学所定の用紙）を提出することができる。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30～11:50	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
発達基礎論講座 発達過程論講座 発達環境論講座 女性学講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査（言語試験、口述試験）及び出願書類を総合して行う。

人 間 環 境 学 専 攻

1. 募集人員        9 名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	( ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 )	( 修士課程に在学し 9 月試験を 受験する者 )
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2 部 ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。 なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。 いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 の概要を添付すること。（A 4 版用紙）  提出論文は、試験終了時に返却する。	6 部 修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 にまとめること。（A 4 版用紙）  ただし、図表は字数には含まれない。  なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。
	修士論文（審査論文）の要旨	
	6 部 修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。 修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2, 0 0 0 字程度 または 英 語 8 0 0 語程度 で A 4 版用紙 3 枚（図表を含む）におさめること。	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1, 000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
6	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせしておくことが望ましい。講座代表教官については、P18・19の人間環境学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

## (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

## 3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30 ~ 11:50	1日目 13:30 ~ 2日目・3日目 10:00 ~
人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

## 4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

複 合 領 域 科 学 専 攻

1. 募集人員 13名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	〔 ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 〕	〔 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 〕
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。</p> <p>いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5, 000字程度 または 英 語 2, 000語程度 の概要を添付すること。（A4版用紙）</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	<p>6 部</p> <p>修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5, 000字程度 または 英 語 2, 000語程度 にまとめること。（A4版用紙）</p> <p>ただし、図表は字数には含まれない。</p> <p>なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。</p>
	修士論文（審査論文）の要旨	
	<p>6 部</p> <p>修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。</p> <p>修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2, 000字程度 または 英 語 800語程度 で A4版用紙3枚（図表を含む）におさめること。</p>	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1,000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。 研究計画書の冒頭に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
6	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

- 注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。
- 注2) 研究計画書に記入する志望指導教官は、別紙(複合領域科学専攻・授業内容一覧)を参照し、それぞれの教官の専門領域をよく考慮して決定すること。
- 注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせしておくことが望ましい。講座代表教官については、別紙(複合領域科学専攻・授業内容一覧)を参照。
- 注4) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

## (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

## 3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【口述試験】
試験日時	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	主論文及び研究計画

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

## 4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。

平成10年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）概要

1. 目 的

本学の博士後期課程は、女性研究者が高度の専門研究及び専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2. 標準修業年限 3年

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較文化学専攻	人間発達学専攻	人間環境学専攻	複合領域科学専攻	合 計
入学定員	19	13	9	13	54

4. 課程の修了

学生は、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

5. 取得できる学位

学術、人文科学、理学、社会科学又は生活科学の博士の学位である。

6. 各専攻及び博士講座の要旨

専攻名		講座名	要 旨
比較文化学専攻	文化研究の諸領域、特に哲学・史学・地理学・文学・言語・芸術・自然科学の分野にわたる総合的比較的方法の基礎理論の確立を目指し、それに基づく日本文化構造の解明を行う。	文化構造論	文化構造の基礎理論と比較の原理・原論の探求を行うとともに、東洋文化と西洋文化それぞれの要素特質を究明して東西文化の対比対照的考察・交流・交渉関係の解明を行う。具体的実証的東洋比較研究と並行して文化一般の構造・機能の本質に迫り、比較文化理論の樹立を目指す。
		日本文化論	日本文学を中心とする日本文化の歴史的・思想的・社会的展開を解明する。すなわち、まず、文学を対象とする研究領域から、歴史・思想・社会・人間関係などの各研究領域を併せて総合的に、日本文化の基本の探求を指向する。
		言語文化論	言語による文化—諸国語の文学を、その言語表現に留意しつつ比較対照し、あるいは、その相互影響の跡をたどって、より大きいパースペクティブの中での文学理論を目指す。また、言語の比較対照によって各国語の特質を究明する。
		比較芸術論	芸術の諸分野における歴史的、地域的比較を行うとともに、各分野相互の比較を、単に現象面のみならず、精神面、機能面からも有機的に行い、芸術的創造ないし表現の本質を究明することを目的とする。

専攻名		講座名	要 旨
比較文化学専攻		比較社会構造論	東洋・西洋の各地域の文化を社会構造の面からとらえる。すなわち、社会構造、その変動過程、あるいは諸社会の接触交流について、歴史学・地理学・文化人類学など諸科学の視角から具体的にとらえるとともに、これを総合的に比較研究し、さらにこれに基づいて日本の社会構造及び文化構造の基本的性格を解明する。
		科学文化論	比較文化学の一環として科学基礎論並びに科学史の研究を行うとともに、人間文化の諸領域に内在する数理的構造を数学的、情報科学的に研究し、個別文化をつらぬく普遍的な文化構造の解明を目指す。
		異文化交流論	国際化の急速な拡大に伴って生じた異民族・異文化相互の受容・学習・共生といった現実的課題を専門的かつ総合的に研究する。特に異文化の伝達と交流に関して、社会生活面を重視したアプローチと異言語学習の理論的な探究を軸に、文化的、歴史的、異文化教育的な研究を進め、新しい観点と国際的視野に立つ日本学 (Japanology) の創造を目指す。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	発達基礎論	種としての人間発達の特徴を明らかにするために、個体発生・系統発生上の比較考察から出発して、胎児期より老年期に至るまでの発達過程、各発達段階の特性、発達要因などの解明を目指すとともに、歴史的・人間学的考察にたって総合的な発達目標の検討を行う。
		発達過程論	生涯にわたる人間発達の過程を、保育・教育・臨床等の実践との関連のもとに研究を行う。心理治療、保育の理論、診断、治療、実践の技法、家庭・集団・文化と人間発達との関連の諸問題を含む。
		発達環境論	人間発達と社会環境との関連を歴史的・地域的・国際的比較研究によって解明し、発達の各時期に対応する発達課題と教育課題を探究する。人間発達に影響を及ぼす意図的制度的な教育機関、内容及び非制度的な教育機会について、全体的、体系的に研究し、発達の機会を保障していく理論と方法の確立を目指す。
		女性学	人間社会における女性のあり方及び男性のあり方を特に女性に着目しつつ総合的・学際的に研究する。1970年代以来の女性学関連領域の研究実績を踏まえ、変動する国際社会の現実の中で文化の多様性・個別社会の自律性・個人の価値観の多様性を尊重しつつ発達する人間のあり方を探究することを目指す。

専攻名		講座名	要 旨
人間環境学専攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	人間生態論	人間と自然環境との関係を、生物としての人間の面からと、環境の側からとの二つの研究方向からとらえる。それらの相互の関係の対比と関連とを総合化することによって、新しい人間生態学の基礎をつくりあげ、人類の生存のための最適環境を究明する。
		生活環境論	人間と生活環境との関係を、生活それ自身のあり方と生活より派生する諸問題の解決に焦点をおき、生活物質、素材の基本的条件の検討から生活を目的とする環境の最適状態及び諸条件を解明する。
		環境基礎論	人間をとりまく自然環境の構造及びそこに発生する諸現象の精密な研究を行い、それによって自然の本質を究明し環境学の基礎理論の確立に寄与する。
複合領域科学専攻	人間が構成する社会とその産物である文化と歴史、人間を取り巻く自然を構成している物質及び生物、さらに自然と人間が織りなす世界の諸現象をミクロ及びマクロな視点から捉え、現代自然科学の方法論を基礎に据えて学際融合的に研究・教育を行う。	社会情報科学	社会現象を情報科学の方法によって解析するとともに、情報の社会に及ぼす影響を動的に研究する。 また、情報の伝播に伴う人間の存在様式の変動を基礎科学の方法論を踏まえつつ、人文・社会科学の視点をを用いてグローバルに解明する。
		数理自然情報科学	自然と情報とを双方向に研究する。すなわち、純粋数学それ自身の研究及び基礎科学共通の言語としての数学の研究を行うとともに、科学の諸分野への数理的方法論の適用、また応用分野の研究を行う。また情報理論的立場から自然現象に関する情報の解析と処理を行うとともに、自然との関連における情報科学の研究を行う。
		物質科学	現代物理学及び化学の方法を用いて、物質の構成要素である素粒子、原子核、原子、分子の性質を研究するとともに、それらの集合体である物質に固有の性質や多様な振る舞いを、ミクロ及びマクロな視点から解明する。
		複雑系科学	要素還元主義の視点からは捉えることの困難な複雑系の諸現象を、自然科学、ことに数理的視点を基礎にした統合的方法論によって研究する。自然界にみられる秩序相の生成、社会組織の生成と崩壊、生命現象のヒエラルキーの内部に見出される自己最適化と応答可塑性、意識の本質と創造性の問題等を、複雑系が内包する相互作用による自己組織化という視点を核に、学際融合的に研究する。

担当教官及び主な授業科目

【比較文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
文化構造論	構造分析	教授:天野正子	社会学(社会集団論、ジェンダー・スタディーズ) 学校・家庭・職場・政治領域でジェンダー関係が構成されていく過程に関する社会学的研究、及びボランティア・アクションをフィルターに市民社会と個の関係を探る研究。
	比較文化論	教授:羽入佐和子	哲学・比較思想 哲学的思考法や概念は文化の違いを越えられるか、また、哲学では人間はどのように位置づけられるかに関心がある。具体的には、近代以降のドイツ哲学における存在論・人間論の分析、及び比較思想の方法をテーマとする。
	東洋文化論	助教授:宮尾正樹	中国現代文学 民国初年(清末も含む)から現代に至るまでの中国文学を、主として文学言語の変容という観点から検討する。また、女性、学校、革命等の様々な言説の文学における現れについても考える。
	西洋文化論	教授:中村弓子	現代フランス思想及び文学 思想においては特にベルクソンを中心とする生命と二元論の問題の研究。文学においては、特にキリスト教との関わりに興味を持つ。
	文化類型論	教授:高島元洋	日本倫理思想史 倫理の問題を行為のもとである存在と捉え、これが日本思想においていかに考えられていたかに関心がある。具体的な試みとしては、他界と超越的なものを介して、人間の関係を再構成することを考える。
	文化変動論	(未定)	
日本文化論	古代文学論	教授:平野由紀子	平安朝文学 特に古今から拾遺に至る時期の勅撰集および私家集研究。物語・仮名日記類・歌物語を生み出してゆく平安貴族社会におけるコミュニケーションの具としての和歌の機能に関心がある。
	中世文学論	教授:三木紀人	中世日本文学 特に鎌倉時代の随筆・日記など自照文学、説話文学を中心に知識人(例えば、長明・無住・兼好など)の生き方とその所産に興味を持つ。
	近代文学論	助教授:大塚常樹	近現代詩歌及び20世紀前半の日本文学 これまでの研究対象は、宮沢賢治を中心に、朔太郎、光晴、中世等の詩人と、梶井基次郎。演習では、芥川、川端、堀、太宰等も扱います。私の目指す研究方法は、表現構造(レトリックやプロット、トポス等)の分析と、文化的社会的時代背景による裏付けです(人生論的な作家論は扱いません)。従って指導学生には、テクニカル等の表現論の意欲的な学習と、様々な時代資料の綿密な調査を要求しています。
	日本文化思想	教授:小風秀雅	日本近代史 政治史、経済史、思想史的分野を中心に、日本の近代化の特徴を、欧米及び東アジアとの比較によって、明らかにするところに主たる関心がある。
	日本文化起源論	教授:安田次郎	日本中世史 平安末期から戦国期までの社会構造。荘園制の成立・発展・解体、土地所有の在り方、貴族社会と寺院社会の関係、寺院構造、中世都市などに関心がある。
	日本文化発達論	教授:市古夏生	日本近世文学 江戸時代の小説・和歌・俳諧などの研究。特に仮名草子・浮世草子における諸問題、近世の特色である出版文化に関する問題について関心を持つ。
	日本語教育論	助教授:岩崎千鶴	日本上代文学 ことばに着目しつつ奈良時代までの作品の諸問題を研究。神話・歌謡・和歌など、古代文学諸ジャンルの生成と展開の様相に関心をもつ。
言語文化論	比較語彙論	教授:宮川幸久	英語学 文法理論、特に語群の構造と種別に関する諸問題。いわゆる文法論のうちで、文を超えた文章の成立過程と構造についても関心がある。
	表現構造論	助教授:内田正子	18~19世紀イギリス文学 特に現代に至るイギリス小説の変容を眺めること。さらに社会における文学のはたらきを、いわゆる文学的テクニカルを越えて考察していきたい。
	言語構造論	教授:海老根静江	アメリカ文学及び文学理論 19世紀から20世紀にかけてのヨーロッパとも関係の深い小説家(ヘンリー・ジェームズ)、詩人(ウォレス・ステイヴンズ)ディコンストラクションを中心とする批評理論等。
	日独比較言語文化論	教授:石丸昭二	20世紀ドイツ・オーストリア文学 主として世紀転換期以後の小説。具体的にはカフカ、ムーゼル、ホフマンスタール、シュニッツラーの小説の構造分析と小説理論。関連してドイツ文学におけるユダヤ思想にも関心を広げている。
	日仏比較言語文化論	助教授:中村俊直	現代フランス文学 ヴェレリーを中心として19、20世紀の詩人(マラルメやアポリネール)や20世紀の小説家(ジッドやブルースト)を研究している。現代言語思想や、近代日本におけるフランス文学の受容にも関心がある。
	対照言語論	教授:相原茂	現代中国語学 現代中国語の文法論が主要研究テーマ。漢語語彙の構造や意味論にも関心がある。日中対照研究や誤用分析も手がけている。
	比較文学論	教授:鈴木泰	国語学・日本語学 古代日本語を中心にテンス・アスペクト体系、及びエヴィデンシャルティーの問題について、その変遷を考えている。

【比較文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
比較芸術論	比較舞踊論	教授:片岡康子	舞踊学 現代舞踊作家と作品の研究。文献とともに作品映像を用いて、現代舞踊の多様な表現方法を探ることを試みている。また日本における西洋芸術(舞踊)の模倣・折衷・創造の過程にも関心を持っている。
	比較音楽論	教授:遠藤秀一郎	ピアノ演奏学 実践の重要性と耳を養う必要性を考える。様式による基礎概念、個々の音色の差異、音響と想像、効果、呼吸など記譜されていないものに関心を持つ。演奏解釈論及び作品実践研究。
	東洋芸術論	(未定)	
	比較造形論	教授:秋山光文	美術史学 古代インドを中心に、仏教美術に関する調査・研究を主な専攻領域としている。特に仏教説話図像の生成と展開について、インドから周辺の仏教文化圏への伝搬と、典拠となるテキストとの相関に関心をもつ。
	西洋造形論	教授:板倉寿郎	美学 服飾を含む造形諸分野における表現性の構造及び意味。ヨーロッパ中世及び今日における諸問題に関心を持つ。
	比較民族音楽論	教授:徳丸吉彦	音楽行動の研究 特に人間が音楽を認知する仕組みについて、異なる文化を比較。三味線音楽を目下の対象とするが、文献とともに口頭伝承を扱う。ほかに、アジアにおける音楽研究を盛んにすることに関心を持つ。
	生活芸術論	教授:小池三枝	日本服飾史 服飾美学 文学作品や絵画の中の服飾を通して日本人の美意識を追求する。近世文学や浮世絵などによって「いき」の美感をとらえ、漱石その他の近代文学によって「ハイカラ」とその周辺の意識を探る。
比較社会構造論	東洋社会論	教授:窪添慶文	中国古代史 魏晉南北朝時代を特色づける貴族を生みかつ支えた社会政治的構造の研究。異民族による中国支配、中国を中心とする国際関係にも興味を持っている。
	西洋社会論	教授:石川宏	19・20世紀フランス文学 大革命以後第2次大戦に至る、フランス社会の動向と文学者の係わりの問題に関心がある。個別的作家としてはスタンダールやバルザック、またベルナノスやモーリヤックなど。
	比較社会論	教授:山本秀行	ドイツ現代史 ドイツ革命とナチズム体制が主要な研究対象。これに関連してヨーロッパの民族、女性などの社会史、それと近代国家とのかかわりに関心がある。
	地域生態論	助教授:栗原尚子	社会地理学 現代社会に顕著な空間的不平等をその社会に固有な空間構造の形成との関連で分析し、そのような空間構造が多様な社会集団によってどのように知覚されているのかを明らかにする。
	比較地域論	教授:内藤博夫	経済地理学 地域レベルにおける産業構造の転換と労働市場および土地利用の変化を考察。日本を中心としつつ、米英両国との比較も試みる。
	社会構造発達史	(未定)	
科学文化論	科学史	(未定)	
	数理情報論	教授:小川洋輔	微分幾何学 定曲率空間の拡張である一般対称空間の理論。そのためにリーマン空間の均質構造や、曲率型テンソルの性質を調べる。人間文化研究科では、位相幾何学から発展したカタストロフィの理論の応用に興味を持つ。
	構造数理論	教授:渡辺ヒサ子	ポテンシャル論 2階の線形偏微分方程式の解の作る関数空間の構造と解の境界挙動の研究。非線形偏微分方程式や最適化問題にも興味をもつ。
	言語数理論	教授:笠原勇二	確率論 時間と共に変動する偶然量を数学的に定式化したものが確率過程である。さまざまな確率過程について、その特徴付けや性質を調べる。またそれらを用いて多様な経済現象や物理現象の解析への応用をはかる。
	構造認識論	教授:細矢治夫	理論化学・情報化学 分子や結晶の構造と諸性質の理論的研究。物質の構造に限らず、種々の情報の構造の情報科学的解析にも関心がある。グラフ理論や組み合わせ理論の化学や物理学への応用も手がけている。
	情報処理論	(未定)	
	確率情報論	教授:竹尾富貴子	情報数学 フラクタルの数値及びカオス力学系の研究。この解明のため符号力学系や図形の表現などコンピュータを併用して研究する。これらに関連して、確率過程や次元・測度及びエルゴード理論にも関心がある。
異文化交流論	異文化環境論	◎教授:千歳壽一	地理情報学 地域・空間に関する情報を、必要に応じて、適時に、最適な形態で、表出・利用するため、取得・解析・出入整理の論理と技法を研究し、成果を、例えば世界都市の意義、望ましいあり方の検討などに応用する。
	国際日本学	助教授:岡崎眸	日本語教育学 第二言語習得に関わる諸要因を明らかにすると同時に、そうしたことに踏まえた日本語教育の方法論を原論と各論に分けて構築する。
	日本語教育方法論	教授:長友和彦	日本語教育方法論 日本語教育の基礎となる日本語学・言語習得研究及び心理学等の関連領域の研究成果に基づいた(シラバスデザイン、教授法を含む)日本語教育方法論の確立を目指す。
	日本言語生活論	助教授:村松貴一	日本語音声表現論 日本語話しことばの韻律的研究。特に改まった場面の発話のイントネーションや構文、文体が、聞き手や場の条件変化とどのような関係があるかに関心がある。

【比較文化学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
異文化交流論	第二言語習得論	教授:西尾道子	<u>言語コミュニケーション論</u> 母語の習得は、特別な訓練なしに行われる。しかし、第2言語については、その使用(運用)能力を上げることは容易ではない。第2言語の習得を実証的・理論的に研究している。
	文化交流発達論	教授:藤原正彦	<u>数論</u> 多変数多項式が数体、有限体、局所体などの中で定義する図形の算術的研究。また、人間における論理と情緒の仕組み、言語獲得などにも興味をもつ。
	民族関係論	教授:柚井孝子	<u>家族社会学</u> 女性の地位および役割がライフステージ、社会、文化によってどのように異なるかに関心を持つ。とくに女性の家族内役割をジェンダー論の立場から、理論的実証的に明らかにしたい。
	アジア文化論	教授:石黒節子	<u>舞踊とコミュニケーション</u> 芸術としての舞踊の創造や上演の際の、動きのつながり方や演じる意識を介して作者・演者・観客の関係を考察する。日本人の美意識といわれる「型」とか「間」に関心がある。
	異文化教育論	助教授:石口 彰	視覚を中心とした人間の感性能力の研究が専門である。3次元視空間の認知やその感性的評価、あるいは創造性や感性表現などに及ぼす心理学的・生物学的・発達の・比較文化的要因を検討する。

注1) ◎を付している教授は、平成10年度末をもって退官する予定である。

【人間発達学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
発達基礎論	人間学	教授：土屋 賢二	人間学 人間が哲学的問題を立てるのはなぜか、その問題の性質は何か、に関心がある。最も哲学の問題になりやすい心理的概念の研究が目下の課題。そのために言語分析の方法が有効だと考えている。
	発達基礎論	教授：内藤 俊史	道徳性の発達 生涯を通じて、道徳性や価値観がどのように形成されるのか、または発達するのかという問題。道徳教育と発達理論との関係、さらにアジア諸文化における道徳性の比較研究にも関心をもつ。
	比較発達論	助教授：倉川 義寛	中医基礎理論 状態空間における状態点間遷移の集積として発達をモデル化することを試み、どのような遷移が選択されることにより発達が形成されていくのかを検討したい。特に構造と機能、人間と環境の相生と相剋をゲーム理論の観点から混えつつ考察する。
	比較教育思想史	教授：上野 浩道	教育思想 認識の教育と感情の教育の関係と構造に関心をもつ。教育作用にみられるシンボル、イメージ、感情、表現といった問題を歴史、原理、実践のレベルから整理し、教育の目的と構造の研究を行う。
	発達障害論	○教授：春日 喬	臨床心理学 精神病理形成の心理生理学的メカニズムに関する研究。対人知覚、コミュニケーションと精神病理及びその治療モデルに関心を持つ。また、人格発達と家族病理学も主要関連領域の一つ。
	身体発達論	(未定)	
発達過程論	人間関係論	教授：黒田 淑子	人間関係学 日常生活における人間知を関係的、動態的に探究すること。人間関係構造のかかり分析、自立と共存のネットワーク、ドラマ・心理劇の活用、個人療法・集団療法によるカウンセリングなどに関心がある。
	発達方法論	教授：鷹野 光行	博物館学・考古学 遺跡を保存し、活用する場、すなわち考古学の成果を呈示する場としての博物館、また社会教育機関として人が自ら学ぶ場としての博物館の活動に関心を持っている。
	初期発達論	教授：楢木 満生	心理臨床学 人間と人間との出会いにおいて相互主観的に事象を把握し、心理臨床の場を通じて帰納的論理を進める。そのために、人と人が関わることによって変化する法則性や原理に関心を持っている。
	保育論	教授：無藤 隆	発達心理学、保育学 主に、幼児から小学生の頃の人間関係、例えば、家族関係、友だち関係、子どもと教師との関係の観察研究を行っている。また、子どもと身近な環境との関わりを検討している。
	発達過程論	教授：内田 伸子	発達心理学 言語と認識の発達に関する諸問題に主たる関心がある。特にディスコースの生成とそれを支える基礎的な認知メカニズムの発達についての実証的研究を行なっている。
発達環境論	発達環境論	教授：宮原 修	教育方法学 学校教育が用意する教育方法・教育課程が人間（子ども）の発達にどのような影響を及ぼすかに主な関心がある。言語・非言語コミュニケーションの分析を中心に授業研究に取り組む。日英の比較研究も行う。
	教育制度論	助教授：耳塚 寛明	教育社会学 学校教育の選抜・配分機能について、(1)教育選抜と社会階層、(2)学校組織・文化と選抜過程、(3)教育選抜の帰結（階層再生産や学歴社会形成）をテーマとした、理論的・実証的研究を進めている。
	成人学習論	◎教授：小川 剛	社会教育学 成人の学習に関する諸問題、特に社会教育施設についての研究。目下は、社会教育の公教育性をイギリス成人教育の発展過程を通してあきらかにすることに関心に向けている。
	家族関係論	助教授：御船 美智子	生活経済学、家庭経済学 経済社会と生活の関わりを家庭・家計を媒介に理論的・実証的に研究。近現代日本の家庭経済史、家族内経済関係、家庭経済政策、家庭経済の国際比較、女性と財産をテーマにしている。
	集団基礎論	(未定)	
女性学	ジェンダー形成論	助教授：館 かおる	女性学 近代日本社会を中心とする女性のジェンダー形成について考察する。その際、社会制度上の構造と個々人の規範意識形成のメカニズムについて検討する。
	比較ジェンダー論	○教授：原 ひろ子	ジェンダーの比較文化的考察 諸文化における男性のあり方と女性のあり方の変容を経時的・比較文化的に考察する方法を検討する。
	女性動態論	教授：大口 勇次郎	日本近世史 江戸時代社会の歴史的検討を通じて日本人の行動原理の伝統的パターンを考える。とくに女性が政治的にも文化的にも長期にわたって歴史の表層に登場することがない社会の構造を、ジェンダーの視点から検討したい。
	男女平等政策論	(未定)	
	国際女性開発論	教授：篠塚 英子	労働経済学・婦人問題論 人間の経済行為のうち労働に関する分野を扱う研究。特に女性は遅れて労働市場に登場したために、法律・経済政策・社会保障などの扱いに性による差別が見られ婦人問題を発生している。
	家族変動論	教授：牧野 カツコ	家族社会学・家族関係学 家族構造、家族関係の動態を社会・経済的変化との関連でとらえる。時代的な変化と個人のライフコースにおける動態変化を含む。最近では父親の役割や家族とジェンダーを研究テーマとしている。

注1) ◎を付している教授は平成10年度末、○を付している教授は平成11年度末をもって退官する予定である。

【人間環境学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
人間生態論	人間生態論	※教授：富田 守	<u>生理人類学</u> 人間行動にともなう身体の生理機能の変化を追う。特に、人類学的視点から姿勢及び歩行における動作学的、生理学的研究を行っている。
	生理環境論	(未 定)	
	生命構造論	助教授：林 正 男	<u>分子細胞情報</u> 動物細胞の細胞接着にかかわるタンパク質、糖、脂質などの分子の構造、機能、遺伝子レベルでの情報制御。バイオサイエンスやバイオテクノロジーの政策、現代科学技術社会の望ましい動向の模索。
	共生現象論	教授：馬場 昭 次	<u>動物生理学</u> 動物の環境への適応、個体間、種間における相互作用を生理学的に研究している。動物についてのこの分野での研究成果を基礎として、人間の適応能力、共生現象についても考察している。
	地域環境論	助教授：杉 谷 隆	<u>自然地理学</u> 自然史科学を基礎にしながら、現代の環境問題を地域住民の生業活動や市民運動を通してみることによって、社会科学との複合的解明を目指している。また、住民の環境認識という哲学的問題にも関心がある。
	環境指標論	教授：根本 心 一	<u>発生生物学</u> 多細胞体形成過程である個体発生に関する細胞・分子レベルからの研究。卵が発生可能な能力を獲得する機構と、その過程で起る出来事と受精及びその後の過程における出来事との関係に注目している。
	大気汚染論	助教授：小 川 温 子	<u>生物化学</u> 生体を構成する分子の中で、種々の複合糖質（糖タンパク質、多糖、糖脂質等）及び糖認識分子の生物化学的研究。また、空中花粉をはじめとして環境中のアレルゲン分子レベルで解析するなど、対象は広い。
	ニューロ素子論	教授：石 和 貞 男	<u>遺伝学</u> 生物集団の遺伝的多様性の維持や種分化の機構に関する問題。また、生物進化に伴い新しい遺伝子情報がどのように形成されて来たかを、形態形成や脳神経・行動系などの遺伝子について研究する。ヒトの原型をハエのDNAに垣間見る楽しさが、“新しい進化遺伝学”の魅力。
生活環境論	食生活資源論	◎教授：小 林 彰 夫	<u>食品化学</u> 味・香りなど食品の嗜好に関わる物質の化学的研究。「うまさ」の問題は物質の探究のみでなく、心理・生理学から背景の文化・社会とも関連する。こうした複合領域を化学の立場から発言し、解明をしたい。
	衣生活素材論	※教授：駒 城 素 子	<u>被服整理学</u> 衣を中心とした生活関連素材の取り扱いに関する諸事項の化学的研究。汚れの基質への吸着、脱着、洗剤成分の作用機構など洗浄についての問題、およびセルロース繊維の酵素処理と物性との関係を検討している。
	食品加工保存論	◎教授：島 田 淳 子	<u>調理科学</u> 調理加工による食品の化学的、物理的および組織変化と食物の嗜好性との関係についての総合科学。特に舌ざわり、歯ごたえなどの感覚に關与する食品物性、これを制御する調理技術とその文化に興味を持つ。
	生体物質論	教授：永 野 肇	<u>有機化学</u> テルペン等の天然有機化合物の生体内での役割に興味を持ち、それらの合成と機能解明の研究を行っている。また、ラジカル反応における新しい立体制御法の開発とその天然物合成への応用にも取り組んでいる。
	物質代謝論	助教授：大 塚 恵	<u>栄養化学</u> 微量栄養素の生理・生化学的諸問題に関する研究。疾病予防に効果のある食品成分の代謝制御機構に関心がある。特に、ビタミンCの役割について研究を行っている。
	環境浄化論	教授：本 間 清 一	<u>食品加工貯蔵学</u> 食品の加工と貯蔵中の品質変化を明らかにし、それを制御する要因と基礎技術の研究。この過程のエネルギー消費、副産物の資源化、さらに人間社会における食品を貯蔵する意義にも研究を拡げたい。
	栄養制御論	教授：倉 田 忠 男	<u>食物学</u> 栄養・食品化学の分野でみられる各種食物成分の変化過程に関する諸問題。特に、ビタミンC及びその関連物質の生体内における挙動の解析、食品の成分間反応による着色・着香現象の化学的解明等に関心がある。
	食生活素材論	○教授：五十嵐 晴	<u>食品栄養学</u> ビタミンE、必須脂肪酸の生理機能代謝、相互作用。最近はこちらに加えて種々の食品成分の生理機能発現の解明の一環として、必須脂肪酸代謝への食品中の微量成分の効果についても検討している。
	衣生活環境論	教授：小 川 昭 二 郎	<u>被服材料学</u> 有機化学的手法による繊維の表面改質、吸水性、消臭性材料の開発、さらに環境により色、電気伝導度等が変化する機能性色素の開発、センサーへの利用等、新しい被服材料、生活材料について考えていきたい。
環境基礎論	環境分析論	助教授：松 浦 秀 治	<u>人類進化学・人類年代学</u> 人類の起源と進化、日本列島人の起源などに関わる化石骨の分析から、人類史における年代学的背景の解明をめざし、併せて古人類の古環境的背景を考察している。
	環境変動論	教授：田 中 辰 明	<u>居住環境学</u> 生活を行う事で人間は、エネルギーを消費している。しかも、民生用のエネルギー消費は増大の一途を辿っている。この事により、酸性雨の問題や二酸化炭素の増大など地球環境に重大な変化をもたらせている。この実態を捉え、改善の為に代替エネルギーについて論じる。
	環境制御論	助教授：田 辺 新 一	<u>衣住環境評価学</u> 室内環境温熱・空気環境の健康影響、快適性に与える影響を人間を中心として研究・教育する。また、その制御及び最適化をライフサイクルアセスメント、エネルギー最適化手法、生産性、心理的満足度手法を用いて行う。
	境界構造論	教授：松 本 勲 武	<u>生化学</u> グリコバイオロジー（糖が関与する分子生物学）、特に動植物レクチンの構造と機能に関する研究。生物の体を構成する種々の生体分子間における親和・反応、会合・解離、集合・離散の機構に興味を持つ。

【人間環境学専攻】

講 座 名	授業科目名	担 当 教 官	研 究 テ ー マ ま た は 研 究 分 野
環 境 基 礎 論	生 態 環 境 論	教 授 : 芦 原 坦	<u>植物生化学</u> プリン代謝をはじめ、基本的な代謝経路の調節機構を主に細胞レベルで検討している。代謝の環境応答に関して、耐塩性のマングローブ植物やリン酸飢餓培養細胞にみられる代謝特性に注目して、研究を進めている。
	統 計 現 象 論	教 授 : 松 浦 悦 子	<u>分子遺伝学</u> オルガネラ独自の遺伝子系の研究。ゲノムの構造や遺伝子発現、及びその進化をとりあげている。核ゲノムの遺伝子系との相互作用にも着目している。
	生 物 圏 生 成 論	※教授 : 室 伏 きみ子	<u>細胞生化学</u> 細胞のストレス応答と、増殖制御のメカニズムを追究している。細胞が、外界からのストレスや正・負の増殖刺激を受け取る機構や、それらの刺激を伝達していく仕組み、さらに、刺激に対応して引き金を引かれる種々の化学反応のメカニズムを明らかにすることを目的として、異なった観点からのアプローチを試みている。

注1) ◎を付している教授は平成10年度末、○を付している教授は平成11年度末をもって退官する予定である。

注2) ※を付している教授は、講座代表である。

【複合領域科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
社会情報科学	社会情報論	助教授：坂元 章	<u>社会情報学</u> あるいは <u>社会心理学</u> テレビゲーム、テレビ、新聞などのメディアによって人間の行動や発達にどのような影響があるか。自己や他者についての評価や判断がどのように形成されるか。
	環境情報論	※教授：河村 哲也	<u>数値流体力学 (CFD)</u> 流体力学の諸問題を計算機を使ってシミュレーションすることにより解析している。特に現在は、自然環境や地球環境問題に興味をもち、CFDの手法による現象の解析を試みている。
	地理情報論	教授：田宮 兵衛	<u>気候学</u> 社会・人間活動と関連する自然地理学的諸現象を、それらの解析を通じて明らかにする。特に大気現象に関わる情報、すなわち大気環境情報に関心がある。当面对象とする現象は都市気候である。
	言語情報論	助教授：古田 啓	言語によって伝達される情報の内容と伝達の課程を考える。特に、言語とコンピュータに共通する「コード」の本質・コンピュータで伝達できる言語情報とできない情報・コンピュータで処理できる言語情報とできない情報の差などを中心に扱う。
数理自然情報科学	数理多様体構造論	※教授：塚田 和美	<u>微分幾何学</u> 現代数学及び自然社会諸現象の数理的解析に不可欠の概念である多様体構造に関し、微分幾何学的手法を用いて研究を行う。また、その数理的諸科学への応用についても関心を払う。
	数理解析論	教授：真島 秀行	<u>微分方程式論</u> 自然科学から社会科学、人文科学に至る様々な現象のみたす微分方程式、差分方程式、積分方程式などから、特定のものを選び、複素解析・漸近解析的手法を主とする数理解析の方法によって研究する。
	力学系理論	助教授：松崎 克彦	<u>複素解析学・双曲幾何学</u> 複素平面上の正則関数の力学系の理論として、クライン群論及び有理関数の反復合成を研究する。タイヒミュラー空間論、低次元双曲幾何学など複素解析的アプローチが中心となる。
	非可換解析論	助教授：吉田 裕亮	<u>非可換解析学</u> 非可換解析学とは、量子系を記述する数学的な道具である。非可換解析学において、中心的な役割を果たす作用素環論、最近では特に、作用素環上で考えられる非可換確率論に関連した研究を行っている。
	情報構造解析論	教授：金子 晃	<u>応用数理</u> 特に、偏微分方程式の数値解析と工業数学への応用、有限要素法の理論と応用、逆問題の解析、CTを中心とする画像処理の理論的研究、情報代数関連の話（ゲームのアルゴリズム・数式処理のライブラリ開発等）
	数値情報処理論	教授：佐藤 浩史	<u>情報科学</u> 広い意味での原子衝突関連の数値シミュレーション、特に、イオン・表面衝突の理論的研究に興味があります。また、外部の研究者と共同で視覚障害者教育支援システムの開発にも関わっています。
	画像情報論	助教授：藤代 一成	<u>ビジュアルコンピューティング</u> 画像合成・解析技術及び仮想現実感技術を利用し、自然科学から人文・社会科学に至るあらゆる分野で発生するデータに潜む対象の本質をユーザに採らせられる計算機環境の実現に資する。
物質科学	統計物理学	教授：柴田 文明	<u>非平衡統計物理学</u> 玉葱の皮むき、物体→分子→原子→素粒子とは逆方向の研究。個性ある構成要素が互いに影響し合いながら集団となるとき振舞いは如何。基礎的量子現象、量子通信理論、確率・統計の研究を含む。
	凝縮系科学	教授：富永 靖徳	<u>凝縮系物理学</u> 結晶・分子・液体などの構造とダイナミクスの実験的な研究。水の動的構造と水溶液系における水の動的構造の分光学的研究。水素結合型強誘電体における水素結合と分極のダイナミクスの分光学的研究。
	高エネルギー物理	教授：菅 本品夫	<u>高エネルギー物理</u> 物質の究極的存在としての素粒子の構造と相互作用を研究する分野で、関与するエネルギーが非常に大きいので「高エネルギー物理」と言う。標準的な理解を超えた、夢のある様々な試みに挑戦する分野である。
	宇宙天体物理学	助教授：森川 雅博	<u>宇宙論</u> 初期宇宙の相転移のダイナミクス。場の理論・非平衡統計力学などの手法も利用する。宇宙の波動関数・ブラックホールからの輻射・量子コヒーレンスと古典化・観測的宇宙論も含む。
	極端条件科学	教授：浜谷 望	<u>極限物性学</u> 超高圧力・極低温の極端条件下におかれた物質の物理的・化学的性質を実験的に研究する。とくに、物性を考察する上で最も基本的な情報である原子配列、電子密度分布を明らかにすることを主目的とし、X線・中性子線の回折・散乱実験を手段とする。あらゆる物質を研究対象とする。
	メソスコピック科学	助教授：小林 功佳	<u>メソ・スケールの物理</u> 最近の微細加工技術の進歩により非常にミクロな人工構造物が作られるようになった。本研究では、このスケール特有のこれまでに見られなかった新たな物性を探索するための理論的研究を行う。
	理論分子科学	※教授：平野 恒夫	<u>計算化学</u> 分子軌道法などの量子化学計算により、分子の構造と反応性を明らかにする。特に、反応に関しては、振動の重要性を考慮した、ダイナミックな取扱いを行う。又、分子集合体の結晶構造を予測する方法を開発する。
	分子集合体科学	助教授：堀 佳也子	<u>分子集合体科学</u> 分子集合体が示す構造と物性の関連および各相間の転移挙動を分子レベルで解明するために、液晶性物質の結晶構造に基づき、種々の液晶相への転移挙動を実験的に解明する。

【複合領域科学専攻】

講座名	授業科目名	担当教官	研究テーマまたは研究分野
物質科学	計算科学	助教授：鷹野 景子	<u>理論化学、計算化学</u> 主として量子化学的手法を用いて理論的研究を行っている。化学反応の機構、化合物の構造や機能などを種々のレベルの計算機を用いた数値計算やシミュレーション計算によって明らかにする。
	機能性分子	教授：福田 豊	<u>無機・錯体化学</u> 金属イオンの介在する化合物は、我々のあらゆる所に見られる。自然界の海水、地殻、空気中では言うにおよばず動物、植物内でも重要な働きをする。出来るだけ広い領域でこの様な金属イオンの働きを理解しようとしている。
	分子反応設計	助教授：山田 眞二	<u>分子反応設計</u> 有機分子の構造と反応に関する基礎的研究を行い、それらに基づき、有機分子を自在に構築するために必要な、位置、立体、官能基選択性を制御する新しい方法について研究する。
複雑系科学	複雑系の秩序形成	◎教授：伊 藤 厚子	<u>物性物理学</u> ランダム磁性体に関心をもち、「無秩序系の中で形成される新しいタイプの秩序」について、静的・動的性質、特に、観測の時空尺度依存の性質に注目して、実験的に研究を行っている。
	非線形ダイナミクス	教授：太田 隆夫	<u>相転移および非平衡開放系の理論</u> 液晶、高分子混合系などの複雑液体における相転移ダイナミクスの理論的研究を行う。非平衡開放系の示す様々な動的秩序の起源、存在様式の研究も行っている。
	非平衡複雑系	※教授：藤 枝 修子	<u>計量分析化学</u> 非平衡過程で進行する非線形化学現象の中で、化学振動反応に興味があり、時空構造の定量的実験から反応機構の解明に向けた研究を行う。熱挙動、電気化学的測定、重力場の影響などの実験結果を計量化学から扱う。
	構造分子科学	助教授：今野 美智子	<u>構造分子科学</u> 結晶における構造を利用して、構造変化を伴う分子間相互作用あるいは、触媒的機能について講究する。主に、複雑な生体内分子の生理作用における過渡的分子結合の形成あるいは電子的安定化の機構を講究する。
	ミクロ複雑系	教授：長 嶋 雲 兵	<u>ミクロ複雑系</u> 複雑系として化学反応系を選び、化学反応系における秩序形成ならびにそのメカニズムを大規模シミュレーションによって明らかにする。その際、ネットワークコンピューティングについての基盤技術も開発する。
	生体複雑機能	助教授：最 上 善 広	<u>動物生理学、宇宙生物学</u> 生命現象の持つ「可塑性と安定性」及び、それらに由来する生物の「多様性」の問題を、生体の示す外部環境への応答機能の側面から捉え研究する。外部環境因子として、特に地球重力に着目し、地球生命の進化と多様化に対するその作用について、微小重力実験や宇宙実験を通してアプローチする。
	動的溶液科学	教授：益 田 祐 一	<u>溶液科学</u> 液体・溶液中での分子の様々なタイプの運動、あるいは化学反応過程が、溶液内のどのような時間的・空間的サイズのゆらぎと相互作用しているかについて、種々の分光法により明らかにする。

注1) ◎を付している教授は、平成10年度末をもって退官する予定である。

注2) ※を付している教授は、講座代表である。

平成10年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士後期課程）  
外国人留学生学生募集要項

1. 専攻別募集人員・試験期日

専攻名	募集人員	試験期日	
		9月入試	3月入試
比較文化学専攻	若干名	実施しない	平成10年3月2日～4日
人間発達学専攻	若干名	平成9年9月24日～26日	
人間環境学専攻	若干名		
複合領域科学専攻	若干名		

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成10年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
  - (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
  - (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- 注）日本において高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試	3月入試
出願期間 ※	平成9年 8月27日（水）～8月29日（金）	平成10年 2月2日（月）～2月4日（水）
言語試験	9月24日（水）	3月2日（月）
口述試験	9月24日（水）～9月26日（金）	3月2日（月）～3月4日（水）
合格発表 ☆	10月18日（金）	3月12日（木）

※ 土曜日・日曜日は、願書受付は行わない。

受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者の受験番号を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1）「複合領域科学専攻」については、口述試験のみとし、言語試験は行わない。

注2）出願資格（3）に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試：平成9年8月20日（水）～8月25日（月）

3月入試：平成10年1月26日（月）～1月29日（木）

注3）口述試験は、本学で指定する日時とする。

#### 4. 出願手続・試験時間割・試験場所・選考方法

詳細については、各専攻ごとに定めてあるので参照のこと。

#### 5. 検定料、入学料及び授業料

検 定 料            30,000円   〔平成10年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科修了見込者は不要〕

入 学 料            275,000円   〔平成10年3月に本学人文科学研究科、理学研究科、家政学研究科修了者は不要〕

授 業 料            469,200円（年額）

注1) 検定料については、出願手続の際に納付すること。

注2) 出願資格(3)に該当する者についての検定料の納付手続きは、本学からの出願資格認定通知書を受領した日から一週間以内に行うこと。

#### 6. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、学生部学務課留学生係（下記の電話番号）に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

#### 7. 入学手続

- (1) 入学手続関係書類は、平成10年3月中旬に郵送する。なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

願書受付場所： お茶の水女子大学 学生部学務課留学生係

平成9年6月

お茶の水女子大学  
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
TEL (03) 5978-5143

比 較 文 化 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p> <p>※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨 （修士論文に代わるものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
6	外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者） 戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返 信 用 封 筒	定形郵便用封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 5 0 円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

## (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

## 3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	平成10年3月2日(月) 10:30 ~ 11:50	3月2日(月) 13:30 ~ 3日(火) 4日(水) 10:00 ~
文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座 異文化交流論講座	英語・独語・仏語・中国語 ・日本語から1言語を選択	主論文及び研究計画
科学文化論講座	英語	

### 注1) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。
2. 辞書の使用は、認めない。
3. 母語以外の言語を選択すること。(科学文化論講座を除く)

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

## 4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 発 達 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	修 士 論 文	
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文を補足する研究成果がある場合はそれを添付することができる。 あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合は、それを審査論文（主論文）とすることができる。</p> <p>※ 修士論文をもたない場合は、これに相当するものを提出すること。</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	
	修士論文（主論文）の要旨 （修士論文に相当するものの要旨）	
	<p>6 部</p> <p>2, 0 0 0 字以内、横書き、A 4 版用紙 3 枚（図表を含む。）におさめること。</p>	
	研 究 計 画 書	
	<p>6 部</p> <p>1, 0 0 0 字前後、横書き、A 4 版用紙 2 枚におさめること。</p>	
4	調 査 書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	健 康 診 断 書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
6	外国人登録済証明書（出願時に、日本国内に在住している者） 戸籍謄本又は出生証明書等（出願時に、日本国外に在住している者）	
7	保 証 人 届	日本国内に居住する保証人の保証書（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	そ の 他	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。
9	返 信 用 封 筒	定形郵便用封筒（長形 3 号）に宛名を明記し 3 5 0 円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、日本語以外の言語で作成したものについては、5,000字以上の日本語要約を添付すること。

注2) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

注3) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30～11:50	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
発達基礎論講座 発達過程論講座 発達環境論講座 女性学講座	英語・日本語から 1言語を選択	主論文及び研究計画

注1) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。
2. 辞書の使用は、認めない。

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

人 間 環 境 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	〔 ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 〕	〔 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 〕
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。</p> <p>いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 の概要を添付すること。（A 4 版用紙）</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	<p>6 部</p> <p>修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 にまとめること。（A 4 版用紙）</p> <p>ただし、図表は字数には含まれない。</p> <p>なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。</p>
	修士論文（審査論文）の要旨	
	<p>6 部</p> <p>修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。</p> <p>修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2, 0 0 0 字程度 または 英 語 8 0 0 語程度 で A 4 版用紙 3 枚（図表を含む）におさめること。</p>	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1, 000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
6	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
7	保証人届	日本国内に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	その他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
9	返信用封筒	定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせしておくことが望ましい。講座代表教官については、P18・19の人間環境学専攻の「担当教官及び主な授業科目」一覧を参照。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

## (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

## 3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【言語試験】	【口述試験】
試験日時	1日目 10:30 ~ 11:50	1日目 13:30 ~ 2日目・3日目 10:00 ~
人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座	英語	主論文及び研究計画

注1) 言語試験において、辞書の使用は認めない。

試験場所: お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

## 4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(言語試験、口述試験)及び出願書類を総合して行う。

複 合 領 域 科 学 専 攻

1. 募集人員 若干名

2. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入 学 願 書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修 士 論 文 等	
	A	B
	〔 ①修士課程を修了した者 ②修士課程を修了見込みの者 〕	〔 修士課程に在学し9月試験を 受験する者 〕
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	<p>2 部</p> <p>ただし、修士論文提出後の研究により、修士論文を補足する研究成果のある場合、あるいは、修士論文以外に別主題について論文がある場合はその論文を審査論文とすることができる。</p> <p>なお、修士論文をもたない場合は、これに代わるものを審査論文として提出すること。</p> <p>いずれの場合も審査論文が、日本語あるいは英語で書かれていないときは、 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 の概要を添付すること。（A 4 版用紙）</p> <p>提出論文は、試験終了時に返却する。</p>	<p>6 部</p> <p>修士論文として提出する予定の研究内容を 日本語 5, 0 0 0 字程度 または 英 語 2, 0 0 0 語程度 にまとめること。（A 4 版用紙）</p> <p>ただし、図表は字数には含まれない。</p> <p>なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。</p>
	修士論文（審査論文）の要旨	
	<p>6 部</p> <p>修士論文を審査論文とした場合、要旨が日本語で書かれていないときは、日本語に翻訳して提出すること。</p> <p>修士論文以外を審査論文とした場合、要旨は 日本語 2, 0 0 0 字程度 または 英 語 8 0 0 語程度 で A 4 版用紙 3 枚（図表を含む）におさめること。</p>	

3	研究計画書	研究計画書
	6部 日本語1, 000字程度または英語400語程度で、A4版用紙2枚以内におさめること。なお、研究計画書の冒頭に、第一志望の指導教官名と第二志望の指導教官名を記入することが望ましい。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。(本学所定の用紙)
5	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。(本学所定の用紙)
6	外国人登録済証明書(出願時に、日本国内に在住している者) 戸籍謄本又は出生証明書等(出願時に、日本国外に在住している者)	
7	保証人届	日本国内に居住する保証人の保証書(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	その他	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。
6	返信用封筒	定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

注1) これらの書類の他に、指導教官またはそれに準ずる者が作成した推薦書(本学所定の用紙)を提出することができる。

注2) 研究計画書に記入する志望指導教官は、別紙(複合領域科学専攻・授業内容一覧)を参照し、それぞれの教官の専門領域をよく考慮して決定すること。

注3) 出願に際しては、予め、志望する指導教官またはその指導教官が所属する講座代表の教官に問い合わせしておくことが望ましい。講座代表教官については、別紙(複合領域科学専攻・授業内容一覧)を参照。

注4) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

## (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に持参の上、提出すること(代理人可)。

## 3. 試験時間割及び試験場所

試験科目	【口述試験】
試験日時	1日目 13:30～ 2日目・3日目 10:00～
社会情報科学講座 数理自然情報科学講座 物質科学講座 複雑系科学講座	主論文及び研究計画

試験場所： お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

## 4. 選考方法

入学者の選考は、学力検査(口述試験)及び出願書類を総合して行う。

## 学 生 募 集 日 程 等

### 1. 募集人員・試験期日

専 攻	募集人員	9 月 入 試	2 月 入 試
		試 験 期 日	試 験 期 日
言 語 文 化 専 攻	32名	平成9年9月3日・4日	平成10年2月2日・3日・4日
人 文 学 専 攻	28名		
発 達 社 会 科 学 専 攻	43名		
ライフサイエンス専攻	45名		
物 質 科 学 専 攻	23名		
数理・情報科学専攻	25名		

- 出願期間（すべての専攻において共通）
 

9月入試：平成9年8月19日～8月22日  
2月入試：平成10年1月7日～1月13日

\*受付時間：午前9時～11時30分  
午後1時～3時  
\*郵送の場合は、締切り日までの消印有効

（注）言語文化専攻、人文学専攻、発達社会科学専攻（社会人特別選抜）は2月入試で実施するので注意すること。
- 出願資格・出願手続  
各専攻の募集要項を参照すること。
- 願書受付場所（すべての専攻において共通）  
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学 文 教 育 学 部 会 議 室 TEL 03 (5978) 5162・5163  
（地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車）
- 選考方法・試験場所  
入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに調査書等の出願書類を総合して行う。  
なお、詳細については各専攻の募集要項を参照すること。
- 合格発表  
9月入試：平成9年9月18日（木）12時頃人間文化研究科棟1階に合格者の受験番号を掲示する。  
2月入試：平成10年2月18日（水）  
合格通知は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上交付する。
- 検定料・入学科・授業料  
検定料：30,000円 入学科：275,000円 授業料：469,200円（年額）
- 入学手続関係書類  
9月入試：平成10年2月下旬に郵送する。  
2月入試：後日通知する。
- 注意事項  
(1)出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。  
(2)合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。
- 問い合わせ先  
〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学 人間文化研究科 TEL 03 (5978) 5821・5822

## 博士前期課程の目的及び修了要件

### (目 的)

1. 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。
2. 博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

### (修了要件)

1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 前項の場合において、博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

### ○取得できる学位

専 攻	学 位	学位に付記する専攻分野の名称
言 語 文 化 専 攻	修 士	人文科学 ・ 社会科学 ・ 学術
人 文 学 専 攻		人文科学・社会科学・生活科学・学術
発達社会科学専攻 発達人間科学系 生活・開発科学系		人文科学・生活科学・社会科学・学術
ライフサイエンス専攻 生活科学系 生命科学系		理学 ・ 生活科学 ・ 学術
物 質 科 学 専 攻		理学 ・ 学術
数理・情報科学専攻		理学 ・ 学術

## 言 語 文 化 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員            32名（社会人学生募集人員5名を含む。）  
                               \*社会人学生募集については5頁を参照

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

- (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推 薦 書	指導の教員又は主任教員等により作成されたもの。（形式随意）
4	研 究 報 告 書	卒業論文又はそれに代わるもの。
5	研 究 計 画 書	将来の研究計画を1,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
6	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
7	調 査 書	本学所定の用紙
8	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
9	検 定 料	30,000円（郵送の場合は「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
10	返 信 用 封 筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長型3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

- (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程言語文化専攻入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成10年2月2日(月)		3日(火)・4日(水)
	外国語試験 10:00~11:30	専門試験 13:00~15:00	
日本語文化学	英語・独語・仏語・ 中国語から1か国語選 択	日本語学・日本文学	口 述 試 験 10:00~
アジア言語文化学		中国語学・中国文学	
日本語教育		日本語教育学・ 日本語文化学	
英語圏・欧州言語文化学 (英語圏言語文化専修)	仏語・独語・中国語 から1か国語選択	英語・英語学及び 英米文学	
英語圏・欧州言語文化学 (仏語圏言語文化専修)	英語・独語・中国語 から1か国語選択	仏語・仏語学及び 仏文学	

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

TEL 03(5978)5162・5163

(地下鉄丸の内線茗荷谷、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

言語文化専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 募集人員 日本語教育コース 5名

2. 募集対象

大学卒業後、過去10年以内に2年間以上（出願年度の3月末日までの期間を通算して2年間以上となる場合を含む。）の日本語教育の経験を有し、日本語教育学・日本言語文化学についてさらに高度の専門能力を養おうとする者。

（注）ただし、個人教授及び研究会会員等の経験歴は、ここでは含まれない。

3. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

4. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書	
3	推薦書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの。（形式随意）
4	研究報告書	大学における卒業論文・卒業研究の内容を1,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
5	研究計画書	将来の研究計画を2,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
6	職務内容報告書	日本語教育期間における職務の内容を1,000字以内にまとめたもの。（本学所定の用紙）
7	写真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
8	調査書	本学所定の用紙
9	在職証明書	常勤、非常勤を問わず在職経験をしめす「在職証明書」
10	健康診断書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
11	検定料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
12	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程（言語文化専攻・社会人）入学願書在中」と朱書すること。

5. 選考日時及び選考方法

平成10年2月2日（月）		平成10年2月3日（火）・4日（水）
外国語	専門科目	口述試験
10:00～11:30	13:00～15:00	10:00～
英語・独語・仏語・ 中国語のうちから1か 国語を選択する。	日本語教育学 日本語文化学	主に研究報告・計画書・職務内容報告 書にもとづいて行う。

6. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部 TEL 03(5978)5162・5163

（地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車）

## 人 文 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

### 1. 募集人員 28 名

### 2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

### 3. 出願手続

#### (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	学 士 論 文	学士論文又はこれに代わるものが提出できない場合はその旨申し出ること。（注）
4	研究計画書	1, 0 0 0 字程度（本学所定の用紙）
5	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
6	調 査 書	本学所定の用紙
7	健康診断書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
8	検 定 料	3 0, 0 0 0 円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
9	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

（注）音楽表現学コース志望者で論文に代わるものとして演奏を行った者は、卒業試験演奏曲目を提出すること。

#### (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程人文学専攻入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成10年2月2日(月)		平成10年2月3日(火)
	外国語	専門科目	口述試験 10:00～
	10:00～11:30	13:00～15:00	
思想文化学	英語・独語・仏語・ 中国語から一か国語 を選択	哲学または倫理 学のうちから一 科目を選択	
歴史文化学		日本史・東洋史 ・西洋史・美術 史のうちから一 科目を選択。な お、美術史分野 は専門試験に加 え、英・独・仏 から一か国語を 課す(外国語試 験とは異なる言 語を選択)。	
服飾文化学		服飾史および服 飾美学	
舞踊・表現行動学		舞踊学	舞踊実技(舞踊の種類・ 演目は自由)(注)
音楽表現学		西洋音楽史及び 日本音楽史から 選択	音楽学:演奏実技(任意 の楽器又は声、曲目は自 由)を課する。 演奏学:10分程度の演 奏実技(曲目は自由)を 課する。 いずれの場合も、必要 な場合は伴奏者を同伴す ること。

(注) 使用する音楽をカセットテープに録音し持参のこと。

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部 TEL 03(5978)5162・5163

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

## 発 達 社 会 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員      43 名

2. 出願資格    下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推 薦 書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの。（形式随意）
4	研 究 報 告 書	卒業論文（あるいはそれに代わるもの。執筆中の場合はその概要）が有る場合には提出する。（卒業論文を提出する場合には、2,000字程度の概要を併せて提出すること。）（本学所定の用紙）
5	研 究 計 画 書	大学院における研究計画を2,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
6	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
7	調 査 書	本学所定の用紙
8	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
9	検 定 料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
10	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程発達社会科学専攻入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

	9月入試	平成9年9月3日(水)		平成9年9月4日(木)
	2月入試	平成10年2月2日(月)		平成10年2月3日(火)
	コース	外国語試験 10:00 ~ 12:00	専門試験 13:00 ~ 15:00	口述試験 10:00 ~
発達人間科学系	教育科学	英語 (辞書持ち込み不可)	教育科学	
	心理学		教育心理学・発達心理学・認知心理学・社会心理学の中から一科目選択	
	発達臨床学		発達臨床学	
	応用社会学		応用社会学	
	社会臨床学		臨床心理学・教育臨床学の中から一科目選択	
生活・開発科学系	生活政策学 地理環境学 開発・フェンダー論	英語 (問題は、Ⅰ英語和訳、Ⅱ和文英訳に分かれ、Ⅱ和文英訳のみ辞書持ち込み可)	六問中二問選択。内一問は必ず志望コースからの出題問題を選択すること。	

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

発達人間科学系 お茶の水女子大学 文教育学部 TEL 03 (5978) 5162・5163

生活・開発科学系 お茶の水女子大学 生活科学部 TEL 03 (5978) 5722・5723

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

#### 6. その他

本専攻は現在、東京大学大学院教育学研究科との間で、学生交流(単位互換)を行っている。

発達社会科学専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 募集人員 発達人間科学系・社会臨床論コース 若干名

2. 出願資格

次のいずれかに該当し、平成10年4月までに2年以上の社会経験を経た女子とする。

- (1)大学を卒業した者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書	出身大学の卒業証明書
3	志望理由書	本学所定の用紙
4	研究報告書	卒業論文（あるいはそれに代わるもの。執筆中の場合はその概要）が有る場合には提出する。（卒業論文を提出する場合には、2,000字程度の概要を併せて提出すること。）（本学所定の用紙）
5	研究計画書	大学院における研究計画を2,000字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙）
6	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
7	調 査 書	本学所定の用紙
8	健康診断書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
9	検 定 料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
10	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程発達社会科学専攻（社会人）入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

平成10年 2 月 2 日 (月)		平成10年 2 月 3 日 (火)
外国語試験	専門試験	口述試験
10:00~12:00	13:00~15:00	10:00~
英語	臨床心理学, 教育臨床学から選択	主に志望理由書、研究報告にもとづいて行う。

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
 お茶の水女子大学 文教育学部 TEL 03(5978)5162・5163  
 (地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

#### 6. その他

本専攻は現在、東京大学大学院教育学研究科との間で、学生交流(単位互換)を行っている。

## ライフサイエンス専攻学生募集要項

### 1. 募集人員 45 名

### 2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者（2月入試で行なう。）

### 3. 出願手続

#### (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
6	検 定 料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
7	返 信 用 封 筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長型3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

#### (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程ライフサイエンス専攻入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成9年9月3日(水)		
2月入試	平成10年2月2日(月)		
	外国語	専門科目	口 述  14:45～ 卒業研究の内容及び将来の研究等について口述する。
	10:30～11:30	12:30～14:30	
生活科学系	英 語	生活環境学分野の問題から選択する。	
生命科学系		生命科学分野の問題から選択する。	

(注) 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

生活科学系 お茶の水女子大学 生活科学部 TEL 03 (5978) 5722・5723  
生命科学系 お茶の水女子大学 理学部 TEL 03 (5978) 5287・5288

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

物質科学専攻学生募集要項

1. 募集人員 23 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6)大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者（2月入試で行なう。）

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票 ・写真票	第一志望のコース名及び指導教官名は必ず記入し、必要がある場合は第二志望のコース名及び指導教官名を記入すること。
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
6	検 定 料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
7	返 信 用 封 筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長型3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程物質科学専攻入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成9年9月3日(水)		平成9年9月4日(木)
2月入試	平成10年2月2日(月)		平成10年2月3日(火)
選 考	物質科学に関する 基礎科目	物質科学に関する 専門科目	口 述 試 験  10 : 00～
	9 : 00～12 : 00	13 : 00～15 : 00	
	9問中4問選択 (各問100点)	9問中2問選択 (各問150点)	

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 理学部 Tel 03(5978)5287・5288

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

# 数 理 ・ 情 報 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 25 名

2. 出願資格 下記に該当する女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6)大学3年生で、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者（2月入試で行なう。）

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
6	検 定 料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
7	返 信 用 封 筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程数理・情報科学専攻入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成9年9月3日(水)				平成9年9月4日(木)
2月入試	平成10年2月2日(月)				平成10年2月3日(火)
選 考	一般・基礎教育科目 (微積分・線形代数)	外国語 (英語)	専門科目	口述試験	口述試験  10:00～
	9:30 ～ 10:50	11:00 ～ 12:00	13:00 ～ 16:00	16:30 ～	

- 注) : (1) 専門科目の試験内容: 数学コースは必修1題(位相)、選択2題  
他コースは、3題選択  
(2) 口述試験の時間割は試験1日目に発表する。  
(3) 受験するコースと希望指導教官の所属コースが異なる場合は当該教官  
または専攻長と事前に相談することが望ましい。  
(4) 数学コースについては、「数A・数B・数C」の区分に関する希望順位  
を記入すること。

〔数A〕教 授 渡辺ヒサ子 ポテンシャル論  
真島 秀行 微分方程式論  
助教授 前田ミチエ 測度論  
松崎克彦 複素解析学  
〔数B〕教 授 藤原正彦 数論  
助教授 榎本陽子 群論および表現論  
横川光司 代数幾何  
〔数C〕教 授 小川洋輔 微分幾何  
塚田和美 微分幾何  
助教授 小野 薫 幾何学

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学 理学部 TEL 03(5978)5287・5288  
(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

数理・情報科学専攻社会人特別選抜学生募集要項

1. 専攻別募集人員 情報科学コース及び応用数理コース 若干名

2. 出願資格

次のいずれかに該当し、最終学歴以降平成10年4月までに2年以上の社会経験を有する女子とする。

- (1)大学を卒業した者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書	出身大学の卒業証明書
3	写真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調査書	本学所定の用紙
5	志望理由書	本学所定の用紙（800字程度）
6	健康診断書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
7	検定料	30,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
8	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長型3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達とし、封筒に「人間文化研究科博士前期課程数理・情報科学専攻（社会人）入学願書在中」と朱書すること。

#### 4. 選考日時、選考方法及び試験場所

9月入試	平成9年9月3日(水)		
2月入試	平成10年2月2日(月)		
選 考	一般・基礎教育科目	外国語	口 述 試 験 13:00～
	9:30～10:50	11:00～12:00	
	微積分・線形代数	英語	

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 理学部 TEL 03(5978)5287・5288

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

#### 6. 昼夜開講制と教育方法の特例

当専攻では社会人を対象に大学院設置基準第14条の規定による教育方法の特例として昼夜開講制を行うこととし、その概略は次のとおりである。

前期課程の2年のうち、前半の1年間は原則として本学での履修を必要とするが、後半の1年間はスクーリングのしばりを大幅に緩和した形で研究指導を受けながら、修士論文を作成することになる。

さらに、特別の事情があると認められたときは、最初の1年間も夏休みなどの活用によって、かなり柔軟な学習形態をとることが可能な場合もある。

このように、指導教官の指導のもとに受講計画、研究計画について個々に柔軟に対応することができるが、可能な範囲については様々であるので希望する指導教官と前もって相談することが望ましい。

## 人間文化研究科の構成

### 前期課程（修士課程）

〔6専攻4系30コース〕（入学定員196）

#### 〔言語文化専攻〕（32名）

日本言語文化学コース  
アジア言語文化学コース  
英語圏・欧州言語文化学コース  
日本語教育コース

#### 〔人文学専攻〕（28名）

思想文化学コース  
歴史文化学コース  
服飾文化学コース  
舞踊・表現行動学コース  
音楽表現学コース

#### 〔発達社会科学専攻〕（43名）

発達人間科学系  
教育科学コース  
心理学コース  
発達臨床学コース  
応用社会学コース  
社会臨床論コース  
生活・開発科学系  
生活政策学コース  
地理環境学コース  
開発・ジェンダー論コース

#### 〔ライフサイエンス専攻〕（45名）

生活科学系  
食品科学コース  
栄養科学コース  
人間生活工学コース  
環境生活工学コース  
生物人間科学コース  
生命科学系  
分子生物科学コース  
生命体科学コース

#### 〔物質科学専攻〕（23名）

相関物質科学コース  
分子科学コース  
物理科学コース

#### 〔数理・情報科学専攻〕（25名）

情報科学コース  
応用数理コース  
数学コース

### 後期課程（博士課程）

〔4専攻 18講座〕

#### 〔比較文化学専攻〕

文化構造論講座  
日本文化論講座  
言語文化論講座  
比較芸術論講座  
比較社会構造論講座  
科学文化論講座  
異文化交流論講座

#### 〔人間発達学専攻〕

発達基礎論講座  
発達過程論講座  
発達環境論講座  
女性学講座

#### 〔人間環境学専攻〕

人間生態論講座  
生活環境論講座  
環境基礎論講座

#### 〔複合領域科学専攻〕

社会情報講座  
数理自然情報科学講座  
物質科学講座  
複雑系科学講座

## 専攻及びコースの概要

専 攻	( コ ー ス )
<p>◎ 言語文化専攻</p> <p>人間の基本的営為の一つである言語活動とそれに基づいて営まれている様々な文化現象について、高度で総合的な研究を行う。</p> <p>具体的には、日本語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語のそれぞれの言語と、これらの言語を用いて営まれている文学をはじめとする文化活動を、あるいは個別的に深く分析し、あるいは比較対照的に幅広く考察する。</p> <p>さらに、国内外で活躍できる日本語教育・研究の専門家の養成を行う。</p>	<p>○ 日本言語文化学</p> <p>多様な方法論に基づいて、各時代・分野ごとに日本文学および日本語について深く研究し、日本文化の精髓にせまる。</p>
	<p>○ アジア言語文化学</p> <p>中国大陸、台湾、香港、東南アジアなど、中国語圏における言語と文学を主要な研究対象とする。中国古典の伝播と受容といった比較文化論的研究や、中国語と他言語の対照的研究も行う。</p>
	<p>○ 英語圏・欧州言語文化学</p> <p>英米文学を中心として広く英語圏の文学と文化および英語学を研究する英語圏言語文化専修と、仏文学を中心として広く仏語圏の文学と文化および仏語学を研究する仏語圏言語文化専修に分かれるが、その共通の姿勢として、独語圏を含む各言語圏のあいだの比較対照など、総合的に研究することも留意する。語学の分野では、英語学・仏語学とともに、第二言語教授法などの実用面の研究を併せて行う。</p>
	<p>○ 日本語教育</p> <p>国際的に広い視野に立って、日本語教育に対する高度且つ多様な要望に応えうる日本語教育学の研究者並びに実践的日本語教員の養成と、日本語教育社会人の再教育を行う。</p>
<p>◎ 人文学専攻</p> <p>哲学・史学・生活文化学などの狭い意味での人文諸学に、身体活動を中核とした芸術系の分野を加え、人文諸学の領域の拡大を図るとともに、それら細分化していた教育・研究体制を統合することにより、身体活動をふくむ人間の文化活動を歴史的かつ共時的に幅広くとりあげ、総合的に探究することをめざす。</p>	<p>○ 思想文化学</p> <p>本コースは「哲学」と「倫理学」（「日本倫理思想史」）とに分かれている。「哲学」は主に西洋哲学を対象とするが、特に議論を通して様々な理論や具体的な問題について根本的かつ緻密に考える能力の養成に重点をおいた教育を行う。「日本倫理思想史」は、神道、仏教、儒教を中心とする文献講読や調査を基に、広く日本思想の本質を探究することをテーマとした教育研究を行う。</p>
	<p>○ 歴史文化学</p> <p>近代ヨーロッパ美術と南アジアの仏教美術を主とする美術史学と日本・東洋・西洋を対象とする歴史学をドッキングさせることによって、文字資料に造形資料、視覚資料の分析を加えて総合した多角的な研究を目指す。</p>
	<p>○ 服飾文化学</p> <p>近年、日本及び欧米で服飾の研究が増大しているのを踏まえ、時代、地域、社会、美意識、生活感情などとの関係の中で服飾を研究する。現代の風俗についても、「流行情報特論」を開講し、現代の感性の動向を数量的解析とフィールドワークによって分析する。</p>
	<p>○ 舞踊・表現行動学</p> <p>舞踊ならびに人間の表現行動について、芸術、民族、教育などの学際的な視点から総合的に教育研究を行う。実践をふまえ、理論的、科学的知見を十分に習得した専門的人材（研究者、指導者、上演者など）を育成する。</p>

	<p>○ 音楽表現学 音楽を文化表象として、理論と実践の双方から研究する。理論面では、日本を含めた世界の諸文化や音楽と社会との関連を扱う。実践面では、西洋近代の鍵盤音楽と声楽を中心的な対象にして、身体行動による表現技術の研究を実証的に行い、国際的に通用する演奏者を養成する。</p>
<p>◎ 発達社会科学専攻 (発達人間科学系) 社会的かつ個人的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、社会学等をベースとして、学際的にアプローチする。社会的・心理的諸病理の解決を目指した実践的課題意識に基づいて、社会－人間－発達を総合的・有機的に結びつける理論と、経験科学的方法論を探究する。</p>	<p>○ 教育科学 人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に探究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行う。基礎科学・方法論として、教育人間学、比較教育文化史、教育社会学を置き、またマクロ・ミクロの実践科学として、教育行財政学、教育方法学、生涯学習論、博物館学を設置する。</p>
	<p>○ 心理学 心理学コースでは、健全な人間の心理を脳という核を中心に、発達という時間軸、社会という空間軸の中で、多角的・総合的に検討し理解する。そのために次のような授業科目を設けている。「心理社会行動論」、「心理発達論」、「人格形成論」、「認知システム論」、「発達情報管理論」。これらの授業科目における教育・研究を通して、心理学領域の研究者を育成することが、本コースの目的である。</p>
	<p>○ 発達臨床学 心理学的観点から、発達や臨床、人間関係、保育・授業等の研究を行う。発達心理、臨床心理、保育・教育心理等の専門的研究者、高度なレベルの幼稚園・小学校等の教師、また、心理臨床の専門家の基礎的教育を行う。</p>
	<p>○ 応用社会学 現代社会の諸問題（家族・地域、コミュニケーションの問題など）を社会的に研究する。 人間関係、職業集団、ネットワークを扱う「社会集団論」、逸脱、差別、コミュニケーションを扱う「社会意識論」、福祉政策、社会病理を扱う「社会保障論」などを開講する。</p>
	<p>○ 社会臨床論 心理学、臨床心理学、精神医学等の臨床的研究に加えて、社会環境を重視する教育臨床学の立場から学校や家族のかかえる諸問題を研究の対象とする。いじめ、不登校、児童虐待、家庭内暴力等の病理的、逸脱的と言われる事象を実践的に研究するとともに、それらの背後にある指導観・教育観を批判的に検討する。</p>
<p>◎ 発達社会科学専攻 (生活・開発科学系) 「人間・文化と自然環境」と「人間の生活の質」とは、従来の学問の領域区分ではほとんど独立に捉えられてきたが、「開発」および「ジェンダー」という両者を通貫する視点によって、新たな展開を遂げようとしている。すなわち、あらゆるレベルでの相互依存性が強まった現代社会特有の問題——代表的な事例は地球環境問題や、男女共同参画型社会形成など——に的確に対処するには、既</p>	<p>○ 生活政策学 高齢化、価値の多様化、国際環境の激変の中で生じる諸問題を、社会科学系諸分野から検討するために「消費者問題論」、「長寿社会論」を開講する。 また、生活者優位の立場に立ち、「生活法社会論」「生活政治論」「生活情報論」などを開講する。</p>
	<p>○ 地理環境学 人間と環境の関係を多角的にとらえるために、まず、地球科学的基礎のうえに、大気現象の動態と人為変化を理化学的に分析する「自然環境論」を開講し、地形環境とその変化を通じて現代の自然観や社会運動を分</p>

存の価値基準・行動規範を乗り越えることが必要である。これらの現実を見定めた教育研究体制の整備と、それによる人材の育成が急務である。これは同時に従来の学問研究の枠組みを再検討することにもなる。

析する「環境認識論」を開講する。

いっぽう、社会・文化的活動を中心に置く視座から、地域イメージの形成やその変遷を通して人間と地域のつながりを分析する「環境文化論」を開講し、また、経済活動によって地域がどのように形成されるかを分析する「地域経済論」を開講する。さらに、以上の各分析で必要となる各種データの収集・処理方法を開発するために「地理情報論」を開講する。

#### ○ 開発・ジェンダー論

従来の学問研究にジェンダーの視点を導入し、特に社会開発、国際協力などの課題をジェンダーの視点で研究する。日本でも独自のコースとして、内外の社会的要請に応えるものである。

#### ◎ ライフサイエンス専攻 (生活科学系)

人間の生命活動である生活は文化的なものであり、生活のあらゆる面にわたって他生物とは異なる様相が見られる。なかでも、自然環境としてのいろいろな物質や他の生物を技術により利用し、人間の衣食住などの日常生活に役立てている点は、生活の物質的基盤を与えるものとして大変重要であり、この方面における学問的発展は全人類から期待されている。そのために、食品科学、栄養科学のほか、人間生活工学、環境生活工学、さらにこれらの基礎となる生物としての人間そのものを探求する生物人間科学の計5コースを置き、専門的教育研究を行う。

#### ○ 食品科学

食品は栄養素の供給と共に、人間の生活を安全に豊かなものにする役割を担っている。食品の嗜好性を決める因子は多岐にわたっており、最新の物理的、化学的解析手法を駆使して、食品組織の状態の解明、味や香りなどの嗜好成分の分析などにより、食嗜好を客観的に評価する手法、研究体系の確立をめざす。また新しい食品加工技術としてのバイオテクノロジーや食品工学の手法を導入し、食資源確保の観点から加工・貯蔵の新方法を検討する。これらの研究領域を統合して最終的には、それらを食品として摂取する人間の受容機構を明らかにし、現代の我が国で起きている食に関するさまざまな問題点の解決をはかる。

#### ○ 栄養科学

健康の維持・増進には、栄養状態や身体の恒常性維持が重要である。生体内における食物成分の変化や動態、そして、栄養素の代謝と機能について理解を深めるとともに、食品成分の栄養生理機能、生体調節機能、ストレスに対する生体防御機構などの解析を中心に教育・研究を行う。これら栄養素の生体内において果たす役割を背景とし、老化や成人病の予防・発症の遅延、そして、自然環境の変化を含む各種ストレスに対する生体の適応反応について、食物の摂取による代謝調節や調節、食生活や生活行動に基づく健康維持への効果を含めて解説する。

#### ○ 人間生活工学

人間の生活には、身体を含む物質的な面と、これに基づく精神などの感性的な面、そしてこれらを基礎としつつ逆に規制もしている社会的な面とがあり、これらは相互に密接に関連している。生活の基礎である人体のホメオスタシスは身体のエネルギーバランスを前提としており、これは生活活動による代謝と環境への熱の排出を基礎としている。これには身体の代謝量を決定する生活様式、環境との界面をなす衣服・住居形態などの変数が直接的な影響を与える。実際の生活はこれらの変数の選択より成り立っているが、その選択因子として人の感性や各人の価値観に基づく生活様式への評価関数がある。本コースは、これらの多様な面を含む人間の生活をいかに、合理的に、かつ健康的に、さらに快適になるように、設計し、実行していくかを、工学として取り扱う。

#### ○ 環境生活工学

人間の生活を直接的に支持かつ支配している生活材料・生活環境を研究・教育の対象としている。  
我々の生活には、消臭材料や高吸水性材料、特殊加

	<p>工繊維製品、高機能洗剤など、優れた工学的成果を生かした特殊生活機能材料が用いられている。どのような機能・物性が生活に求められているか、そのために必要なメカニズムは何か、またそれをどのように設計し開発するか、そして、これらの材料に関する工学的成果をいかに生活に生かすか、本コースではこれらを検討している。</p> <p>また、熱・光・音・空気などの環境因子が人体の生理や心理にどのような影響を与えるかについても工学的に取り扱っている。</p>
<p>◎ ライフサイエンス専攻 (生命科学系)</p> <p>生命科学系は、地球上の生物に共通して見られる生命現象を解明し、生命の起源以来三十数億年の間進化してきた多様性と独自性を特徴とする生命とは何かを追求する生物科学に関する教育・研究を行う。さらには、食物・健康・環境などの諸問題と取り組む基本となる新しい先端科学技術を捉え直す基盤形成をも目指して研究・教育を行う。</p>	<p>○ 生物人間科学</p> <p>人間は生活の主体であり、生活をよりよいものとするためには人間についての理解を深めることが極めて大切である。</p> <p>本コースは人間を自然科学的に探究することを目指し、人間の身体的側面を中心とした本質、由来、変異、適応などのデータ収集と分析を行い、生物としての人間に関する専門教育研究を行うが、そのことにより、優れた生活用品の開発や心身の健康増進にも新しい視野を与えることが期待される。</p> <p>○ 分子生物科学</p> <p>分子生物科学を基盤として、生体物質の生化学・物理化学的解析方法や遺伝子操作を含む細胞工学・遺伝子工学的手法を総合し、動植物にかかわる基本的、かつ、高次な生物現象を分子レベルまで掘り下げて解析することを中心に研究・教育を行う。糖鎖分子・糖質分子科学、生化学、分子生理学、分子遺伝学、分子細胞生物学などの学問分野が含まれる。</p> <p>○ 生命体科学</p> <p>生命現象の背後には、生体調節や生体防御に関する大小さまざまなシステムがあり、生物種によって著しく多様化、複雑化している。本コースでは、生命体活動の基本素子となる生体分子の構造と機能の研究を基盤とし、細胞、組織、器官及びシステムとして構成される個体レベルの構造と機能、さらには、そうした仕組みの進化にわたる多角的な研究・教育を行う。生理学、発生学、遺伝学、進化学などの学問分野が含まれる。</p>
<p>◎ 物質科学専攻</p> <p>ミクロから宇宙スケールにおよぶ物質の構造と形成過程、フェムト秒から億年にわたる現象のダイナミクスなど、物質が示すあらゆる性質を解明し予測することを目的に、物理学と化学によるアプローチを総合して研究・教育を行う。</p>	<p>○ 相関物質科学</p> <p>相転移、パターン形成、溶液の構造、ガラス、磁気スピングラス、非線形反応などの非線形・非平衡系について、物理・化学の両面から、統合的な教育・研究を行う。</p> <p>○ 分子科学</p> <p>分子や分子集団の構造、物性及び反応に関する理論と実験についての教育・研究を行う。</p> <p>○ 物理科学</p> <p>究極の物質構成単位の素粒子から、その集合体の原子・分子・結晶、さらに宇宙の構造までを支配する原理・法則を探究する実験と理論の研究・教育を行う。</p>

◎ 数理・情報科学専攻

数学と情報科学は互いに連携しつつ、自然科学のみならず広範な領域での現象の解明に不可欠な基盤となっており、また幅広い分野で活用されている。本専攻では、様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開、数学とコンピュータによる自然科学諸分野の現象の数理科学的解明、様々な分野の情報に対するコンピュータによる接近法及び得られた情報の表現法の開発等に関する高度な専門教育と研究を行う。

○ 情報科学

コンピュータによるデータの処理に関連する基礎研究及びその自然科学分野への応用に関する教育・研究を行う。

○ 応用数理

情報科学の基礎づけや計算機支援による理学研究に関わる分野での数理科学の教育・研究を行う。

○ 数 学

様々な分野との関連も視座に入れた純粋数学理論の新しい展開に関する高度な専門教育と研究を行う。

担当教官及び主な授業科目

博士前期課程

言語文化専攻

平成9年6月11日現在  
(担当教官名:五十音順)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
日本語文化学コース	教授 市古夏生 " 市古夏生 助教授 市古夏生 " 市古夏生 " 市古夏生 " 市古夏生	日本近世小説、出版文化 国語学、特に古代日本語 平安和歌文学 日本上代文学 日本現代文学、特に宮沢賢治 日本近代文学、特に明治小説 国語学、特に近代日本語	日本近世文学特論 古代日本語学特論 日本中文学特論 日本上代文学特論 日本現代文学特論 日本近代文学特論 近代日本語学特論
アジア言語文化学コース	教授 相原茂樹 助教授 相原茂樹	中国現代語学 中国現代文学	現代中国語学特論 現代中国語学特論
英語圏・欧州言語文化学コース	教授 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二 助教授 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二 " 石川宏二	フランス近代小説・ロマン主義の諸問題 20世紀ドイツ・オーストリア文学 ヘンリー・ジェイムズ、アメリカ・モダニズム文学の研究 20世紀フランス文学・思想（バルクソン） 英語学、特に語用論（談話構造の検討に関心） 英語文法理論・英語音声学・英語語法の研究 英語の発話を対象とする意味論・語用論の研究 小説、散文を中心とする英文学、イギリス社会研究 近代独文学、特にトーマス・マン研究 アメリカ文学と映像における表象の研究及び批評理論 ヴェレリーを中心とする近・現代フランス文学 17世紀のイギリス文学および観念史研究 17世紀フランス宗教思潮・神秘主義思想	近代仏文学特論 独文学特論 教養論（総論）・教養論（個・断片） 現代仏文学特論 英語コミュニケーション 特論 英語学特論（統語論・意味論） 英語学特論（語用論） 英文学特論（個・断片） 近代独文学演習 英語圏言語文化特論 現代仏文学特別演習 英文学特論（作品研究） 近代仏文学特別演習
日本語教育コース	教授 長友和彦 " 長友和彦 助教授 長友和彦 " 長友和彦 " 長友和彦 " 長友和彦	第二言語としての日本語の習得研究 中世日本の知識人たちの心情・生活・および文学 日本語習得に及ぼす母語の影響を明らかにすること 日本古代における王権と儀式の研究 従来の教授法を考察し、日本語教育法の改善を目指す 情報伝達におけるイントネーションの役割	言語分析学特論 日本語文化学演習 日本語教育方法論 日本語文化学特論 比較言語教育学特論 日本語音声学方法論

人文学専攻

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
思想文化学コース	教授 高島元洋 " 高島元洋 助教授 高島元洋 " 高島元洋 " 高島元洋	日本倫理思想史 ギリシャ哲学・分析哲学 実存哲学・比較思想 日本思想史における超越思想、仏教思想、比較思想 現代哲学・科学哲学	倫理思想史特論 哲学特論 形而上学特論 倫理学特論 科学哲学特論
歴史文化学コース	教授 秋山光文 " 秋山光文 " 秋山光文 " 秋山光文 " 秋山光文 助教授 秋山光文 " 秋山光文 " 秋山光文 " 秋山光文 " 秋山光文	インド美術史、仏教美術史 日本近世史、女性史 中国古代の政治・社会・文化・国際関係 日本近代史、近代化と国際関係 日本中世史、古文書学 ドイツ現代史、ヨーロッパ社会史 フランス近代美術史 イギリス中世史、ヨーロッパ国制史 日本古代史、政治文化史 イスラム史、都市社会史	東洋美術史特論 日本社会史特論 アジア政治文化特論 日本政治経済史特論 歴史史料論 西洋史学方法論 西洋美術史特論 西洋政治文化特論 日本文化史特論 アジア社会文化特論
服飾文化学コース	教授 板倉壽郎 " 板倉壽郎 助教授 板倉壽郎 " 板倉壽郎 " 板倉壽郎	流行伝達の構造 日本近世・近代の服飾と美意識 フランス中世・近代服飾 日本の古代・中世の服飾を中心とした生活文化	流行情報論特論 日本服飾文化論 西洋服飾文化論 風俗文化論
舞踊・表現行動学コース	教授 石黒節子 " 石黒節子 助教授 石黒節子 " 石黒節子 " 石黒節子	舞踊上演に関するコミュニケーション研究 20世紀における芸術舞踊の作家・作品研究 日本及びアジアにおける民族舞踊の伝承と変容	上演舞踊学特論 舞踊芸術学特論 民族舞踊学特論
音楽表現学コース	教授 遠藤秀一郎 " 遠藤秀一郎 助教授 遠藤秀一郎 " 遠藤秀一郎 " 遠藤秀一郎	ピアノ演奏法 民族音楽学・音楽記号学 音楽美学・パフォーマンス研究 声楽作品における演奏法研究	ピアノ演奏学特論 民族音楽学特論 音楽学特論 声楽演奏学特論

発達社会科学専攻  
(発達人間科学系)

コース名	担当教官	研究テーマ又は研究分野	主な授業科目
教育科学コース	教授 上野 浩 道 " *小川 剛 " 鷹野 光 行 " 宮原 修 修 助教授 駒込 武 " 耳塚 寛 明 (未 定)	シンボルの機能と役割に関する教育人間学的考察 成人の学習論ならび成人教育の比較的研究 遺跡博物館と博物館の教育機能 学校教育を中心とする教育方法・教育過程の研究 ナショナリズムと教育に関する比較文化史的考察 教育選抜と学校組織の社会学的研究。高校教育論	教育人間学特論 生涯学習論特論 博物館学特論 教育方法学特論 比較教育文化史特論 教育社会学特論 教育行政学特論
心理学コース	教授 内田 伸 子 " 内藤 俊 史 助教授 石口 彰 " 坂元 章	発達心理学。特に言語の発達の基礎メカニズム 教育心理学。道徳性の発達と文化的要因の研究 認知心理学。視覚パターン認知を中心とする 社会心理学。特に社会的認知とメディア効果	心理発達論 人格形成論 認知システム論 心理社会行動論
発達臨床学コース	教授 黒田 淑 子 " 榎本 満 生 助教授 無藤 隆 " 伊藤 美奈子 講師 田代 和美	人間関係・生活臨床における「間」関係的役割 カウンセリングや心理療法の原理と技法 生涯にわたる認知と対人関係の発達 青年期以降の人格発達ならびに学校臨床 乳幼児の保育と臨床	人間関係学特論 カウンセリング特論 認知発達学特論 生涯臨床学特論 保育臨床学特論
応用社会学コース	教授 天野 正 子 助教授 坂本 佳江	「市民社会」とネットワークに関する社会学的考察 「現代社会と社会意識」に関する理論的研究	社会集団論 社会意識論
社会臨床論コース	教授 春日 喬 助教授 酒井 朗 " 山本 政 人	コミュニケーションの病理と治療モデル 日本の学校文化、教育活動のエスノグラフィー 発達障害のメカニズムと援助	メンタルヘルス論 青少年指導文化論 障害臨床学特論

(生活・開発科学系)

生活政策学コース	教授 袖井 孝 子 " 牧野 カツコ 助教授 犬塚 伝 也 " 杉田 孝 夫 " 御船 美智子 (未 定)	老年期における家族関係及び女性の介護役割の研究 日本の家族関係の研究及び家庭科教育学 消費者問題論—消費者・生活者の観点からの接近点 家族・福祉・参加等に関する政治思想(史)研究 家族を媒介とした経済社会と生活の理論・実証研究	長寿社会論 家庭科教育学特論 消費者問題論 生活政治論 生活経済論 生活法社会論
地理環境学コース	教授 田宮 兵 衛 " *千歳 壽 一 助教授 内藤 夫 貴 " 杉谷 隆	自然地理学・気候学。気候解析及び都市気候学 地理情報学の手法整備と都市形成のための応用研究 工業地域の形成と変動及び繊維産地の構造と変容 歴史・文化地理学。生活世界研究。 自然保護や自然観についての自然地理学的研究	自然環境論 地理情報論 地域経済論 環境文化論 環境認識論
開発・ジェンダー論コース	教授 篠塚 英 子 " 波平 恵美子 " 原 ひろ子 助教授 熊谷 圭 知 " 栗原 尚 子 " 館 かおる	経済学の手法で労働の諸問題を実証的に分析する 医療とジェンダーの文化人類学 開発過程での文化・社会と個人生活との関連の分析 オセアニア・東南アジア地域研究とフィールドワーク パルセロナ市の都市計画を社会地理学的に研究 ジェンダー規範と制度の連関に関する研究	フェミニスト経済学 ジェンダー文化論 比較ジェンダー開発論 女性政策論 開発政策論 ジェンダー関係論

ライフサイエンス専攻  
(生活科学系)

コ ー ス 名	担 当 教 官	研 究 テ ー マ 又 は 研 究 分 野	主 な 授 業 科 目
食 品 科 学 コ ー ス	教 授 *小林 彰 夫 " *島 田 淳 子 " 本 間 清 一 助 教 授 久保田 紀久枝 " 富 永 典 子 " 畑 江 敬 子 " 村 田 容 常	嗜好性決定因子に関する有機化学的研究 食べ物の嗜好性要因の解析と評価 食品の加工・貯蔵中の成分間反応の解析と応用 食品中の生理機能成分の化学構造と活性相関 極限環境下の微細藻類の生長特性と適応について 調理操作による食品の変化とその制御 食品の貯蔵・加工に関する生化学反応の解析と制御	嗜好成分化学特論 食嗜好評価学特論 食品保存科学特論 食品機能化学特論 資源微生物学特論 調理科学特論 食資源学特論
栄 養 科 学 コ ー ス	教 授 五十嵐 脩 子 " *大 橋 昌 子 " 倉 田 忠 男 助 教 授 大 塚 恵 恵 (未 定)	ビタミンE、カロテノイドの体内動態・代謝・生理機能 生態物質の基本的な構造と機能及び変化について ビタミンCの抗酸化機能と生理作用の発現機作 微量栄養素の生理・生化学および代謝制御	生体防御学特論 生化学特論 食品生化学特論 栄養生化学特論 代謝制御学特論
人 間 生 活 工 学 コ ー ス	教 授 田 中 辰 明 助 教 授 會 川 義 寛 " 長谷部 ヤ エ	住宅問題、省エネルギーの太陽熱利用住宅。カビ。 感覚工学・人体への刺激と応答・固体電子材料物性。 着衣による生理反応と熱的快適性。熱・水分の移動。	人間居住環境学特論 人間生活物理学特論 衣生活環境学特論

環 境 生 活 工 学 コ ー ス	教 授 小 川 昭 二 郎 " 駒 城 素 子 助 教 授 仲 西 新 正	繊維及び高分子材料化学・機能性色素化学。 染色化学という洗浄科学。繊維の酵素処理加工。 住環境計画。人体の熱・空気環境評価。 高分子材料物性。膜とゲル。機能性繊維。	生活材料化学特論 生活環境化学特論 衣住環境評価学特論 生活材料物性特論
生 物 人 間 科 学 コ ー ス	教 授 富 田 守 三 " 永 川 祐 三 助 教 授 鈴 木 恵 美 子 " 松 浦 秀 治 講 師 柴 坂 寿 子	生活行動の生理学的基礎 健康管理医学 生体に影響を及ぼす生活環境因子の解析 人類の進化や日本人の起源に関する年代学的研究 人間の社会行動と集団過程の比較行動学的研究	生理行動学特論 健康医学特論 生体制御学特論 人類進化学特論 比較行動学特論

(生命科学系)

分 子 生 物 科 学 コ ー ス	教 授 芦 原 坦 子 " 松 浦 悦 子 " 松 本 敷 武 助 教 授 室 伏 武 子 " 小 川 温 子 " 林 正 男 (未 定)	植物の代謝調節 核外遺伝子系の発現制御機構 動植物レクチンの構造と機能に関する研究 真核細胞の増殖制御機構とストレス応答 生命現象と糖鎖情報の分子科学的研究 高等動物の細胞接着因子・バイオの国際動向政策	代謝生化学特論 分子遺伝学特論 糖鎖分子生物学 細胞情報特論 分子生物化学特論 分子細胞生物学特論 生体膜代謝論
生 命 体 科 学 コ ー ス	教 授 石 和 貞 男 " 根 本 心 一 次 " 馬 場 昭 司 " 山 下 貴 広 助 教 授 最 上 善 人 " 清 作 正 明 " 本 田 正 明 (未 定)	昆虫の脳行動系、生体防御系遺伝子群の進化多様性 卵成熟（減数）分裂や形態形成などの初期発生機構 細胞運動（繊毛・鞭毛運動）、機械受容 単子葉植物の構造、発生と系統 外界刺激に対する生体応答の可塑性の研究 海産動物の発生生物学、形態形成と細胞分化 植物培養細胞における二次代謝調節	分子進化学 分子発生学 動物生理学特論 植物系統進化学 宇宙生物学特論 海洋生物学特論 形質発現植物生理学 分子発生学

## 物質科学専攻

コ ー ス 名	担 当 教 官	研 究 テ ー マ 又 は 研 究 分 野	主 な 授 業 科 目
相 関 物 質 科 学 コ ー ス	教 授 *伊 藤 厚 子 " 太 田 隆 夫 " 富 永 靖 徳 " 藤 枝 修 子 " 益 田 祐 一	ランダム磁性体の静的・動的構造及び相転移 相転移理論・非平衡開放系の理論 誘電体・水溶液系のラマン分光と誘電分散 非線形化学現象の計測に関する分析科学的研究 溶液内の局所構造とそのダイナミクス	磁性体特論 非平衡物理特論 化学物理特論 非線形化学 溶液化学
分 子 科 学 コ ー ス	教 授 永 野 肇 " 平 野 恒 夫 " 福 田 豊 助 教 授 今 野 美智子 " 廣 野 景 子 " 堀 佳也子 " 山 田 眞 二 (未 定)	天然物化学—主としてテルペン類の合成研究 分子の構造・反応性に関する量子化学 機能性錯体の合成と反応に関する研究 X線結晶構造解析を利用した核酸と蛋白質の結合の機構と生化学的反応機構の研究 分子の電子構造と化学反応の機構 液晶相形成物質の構造と性質に関する研究 新規有機合成反応の開拓—至及び光エネルギーの利用	天然物有機化学 反応化学特論 無機化学特論 蛋白質結晶学 量子化学特論 分子凝集機構論 有機立体化学 分離科学
物 理 科 学 コ ー ス	教 授 柴 田 文 明 " 菅 本 晶 夫 " 浜 谷 望 夫 助 教 授 小 林 功 佳 " 出 口 哲 生 " 森 川 雅 博	非平衡統計力学・基礎的量子現象・量子通信理論 素粒子論・高エネルギー物理学 極限条件下の物質構造と相転移 物性理論・表面物理学 数理物理・物性基礎論・高分子統計力学 宇宙物理学	統計力学特論 素粒子特論 極限物性特論 表面物理特論 数理物理学特論 宇宙物理学特論

## 数理・情報科学専攻

コ ー ス 名	担 当 教 官	研 究 テ ー マ 又 は 研 究 分 野	主 な 授 業 科 目
情 報 科 学 コ ー ス	教 授 河 村 哲 也 " 佐 藤 浩 史 " 長 嶋 雲 兵 助 教 授 市 川 哲 彦 " 粕 川 正 充 " 藤 代 一 成	数値流体力学・数値シミュレーション 計算物理学・数値処理 計算化学・並列分散処理・ニューラルネットワーク データベース ヒューマンインターフェイス コンピュータグラフィックス・データベース	シミュレーション科学特論 数値解析特論 計算機言語特論 データベースマシン特論 人間機械系特論 データベースシステム特論
応 用 数 理 コ ー ス	教 授 笠 原 勇 二 " 金 子 見 " 竹 尾 富貴子 " 細 矢 治 夫 助 教 授 浅 本 紀 子 " 吉 田 裕 亮	確率論 偏微分方程式・トモグラフィの数値 応用解析学・作用素論 グラフ理論の化学への応用・情報化学 離散数学・文書処理系 応用解析学・作用素理論	確率解析特論 離散数学特論 応用解析学特論 環境数理特論 数式処理特論 情報解析学特論
数 学 コ ー ス	教 授 小 川 洋 輔 " 塚 田 和 美 " 藤 原 正 彦 " 真 島 秀 行 " 渡 辺 ヒサ子 助 教 授 榎 本 陽 子 " 小 野 薫 " 前 田 ミチエ " 松 崎 克 彦 " 横 川 光 司	微分幾何 微分幾何 数論 微分方程式論 ポテンシャル論 群論及び表現論 幾何学 測度論 複素解析学 代数幾何	幾何構造特論 多様体構造特論 解析的整数論特論 漸近解析特論 関数解析特論 多元環構造特論 位相構造特論 実解析特論 複素力学系特論 複素多様体特論

\*印の教官は、平成11年3月31日付けで退官予定である。

平成10年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士前期課程）  
外国人留学生学生募集要項

学 生 募 集 日 程 等

1. 募集人員・試験期日

専攻	募集人員	9 月 入 試	2 月 入 試
		試 験 期 日	試 験 期 日
言 語 文 化 専 攻	若干名		平成10年2月2日・3日・4日
人 文 学 専 攻	若干名		
発 達 社 会 科 学 専 攻	若干名	平成9年9月3日・4日	
ライフサイエンス専攻	若干名		
物 質 科 学 専 攻	若干名		
数理・情報科学専攻	若干名		

2. 出願期間（すべての専攻において共通）

9月入試：平成9年8月19日～8月22日  
2月入試：平成10年1月7日～1月13日

）\*受付時間：午前9時～11時30分  
午後1時～3時  
（土・日曜を除く）

（注）言語文化専攻、人文学専攻は2月入試で実施するので注意すること。

3. 出願資格・出願手続

各専攻の募集要項を参照すること。

4. 願書受付場所（すべての専攻において共通）

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学 学務課留学生係 Ⅱ 03(5978)5143  
（地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車）

5. 選考方法・試験場所

入学者の選考は、「筆記試験」及び「口述試験」並びに調査書等の出願書類を総合して行う。  
なお、詳細については各専攻の募集要項を参照すること。

6. 合格発表

9月入試：平成9年9月18日（木）12時頃人間文化研究科棟1階に合格者の受験番号を掲示する。  
2月入試：平成10年2月18日（水）  
合格通知は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上交付する。

7. 検定料・入学科・授業料

検定料：30,000円 入学科：275,000円 授業料：469,200円（年額）

8. 入学手続関係書類

9月入試：平成10年2月下旬に郵送する。  
2月入試：後日通知する。

9. 注意事項

- (1)出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (2)合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

10. 問い合わせ先

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学 学務課留学生係 03(5978)5143

## 博士前期課程の目的及び修了要件

### (目 的)

1. 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。
2. 博士前期課程の標準修業年限は、2年とする。

### (修了要件)

1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
2. 前項の場合において、博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

### ○取得できる学位

専 攻	学 位	学位に付記する専攻分野の名称
言 語 文 化 専 攻	修 士	人文科学 ・ 社会科学 ・ 学術
人 文 学 専 攻		人文科学・社会科学・生活科学・学術
発達社会科学専攻 発達人間科学系 生活・開発科学系		人文科学・生活科学・社会科学・学術
ライフサイエンス専攻 生活科学系 生命科学系		理学 ・ 生活科学 ・ 学術
物 質 科 学 専 攻		理学 ・ 学術
数理・情報科学専攻		理学 ・ 学術

## 言 語 文 化 専 攻 学 生 募 集 要 項

### 1. 募集人員 若干名

### 2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6)出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

### 3. 出願手続

#### (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	推 薦 書	研究上の指導者等の推薦書（形式随意）
4	研 究 計 画 書 （注）	1, 0 0 0字以内で、留学の目的、研究予定の専攻分野、将来の計画等についてまとめたもの。（本学所定の用紙）
5	研 究 報 告 書 （注）	大学における卒業論文・卒業研究の内容を1, 0 0 0字以内でまとめたもの。（本学所定の用紙） *日本語教育コース志願者のみ
6	写 真	正面上半身（5 cm×4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
7	調 査 書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
8	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
9	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
10	保 証 人 届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
11	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
12	検 定 料	3 0, 0 0 0 円
13	返 信 用 封 筒	定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

（注）「4 研究計画書」及び「5 研究報告書」 は日本語で作成すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること(代理人可)。

\*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コ ー ス	平成10年2月2日(月)		3日(火)・4日(水)	
	外国語試験 10:00~11:30	専門試験 13:00~15:00		
日本言語文化学	英語・独語・仏語 から1か国語選択	日本語学・日本文学	日本語試験 15:30~ 16:30	口 述 試 験 10:00~
アジア言語文化学		中国語学・中国文学		
日本語教育		日本語教育学・日本語文化学		
英語圏・欧州言語文化学(英語圏言語文化専修)	英語・独語・仏語 から1か国語選択	英語・英語学及び英米文学		
英語圏・欧州言語文化学(仏語圏言語文化専修)		仏語・仏語学及び仏文学		

5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部

TEL 03(5978)5162・5163

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

## 人 文 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6)出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」(又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者

(注)日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書(卒業見込証明書)	
3	学 士 論 文	学士論文又はこれに代わるものが提出できない場合はその旨申し出ること。(注)
4	研究計画書	1,000字程度(日本語で作成)(本学所定の用紙)
5	写 真	正面上半身(5cm×4cm)で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
6	調 査 書	本学所定の用紙(但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可)
7	健康診断書	本学所定の用紙(保健所等公的医療機関で作成したもの。)
8	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
9	保証人届	我が国に居住する保証人(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
10	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。	
11	検 定 料	30,000円
12	返信用封筒	定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(注)音楽表現学コース志望の者で論文に代わるものとして演奏を行った者は、卒業試験演奏曲目を提出すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること(代理人可)。

\*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

試験日時 コース	平成10年2月2日(月)			2月3日(火)
	外国語	専門科目		
	10:00~11:30	13:00~15:00		
思想文化学	英語・独語・仏語から一か国語を選択(注1)	哲学または倫理学のうちから一科目を選択	日本語 15:30 ~ 16:30	口述試験 10:00~
歴史文化学		日本史・東洋史・西洋史・美術史のうちから一科目を選択。なお、美術史分野は専門試験に加え、英・独・仏から一か国語を課す。		
服飾文化学		服飾史および服飾美学		
舞踊・表現行動学		舞踊学		舞踊実技(舞踊の種類・演目は自由)(注2)
音楽表現学		西洋音楽史および日本音楽史から選択		音楽学:演奏実技(任意の楽器又は声、曲目は自由)を課する。 演奏学:10分程度の演奏実技(曲目は自由)を課する。 いずれの場合も、必要な場合は伴奏者を同伴すること。

(注1) 母国語も可。なお、専門科目で倫理学、日本史、美術史、舞踊学のいずれかを選択する者は外国語試験を受験しなくてよい。

(注2) 使用する音楽をカセットテープに録音し持参のこと。

5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

お茶の水女子大学 文教育学部 TEL 03(5978)5162・5163

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

## 発 達 社 会 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 若干名

2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6)出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」(又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者

(注)日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書(卒業見込証明書)	
3	推 薦 書	指導の教員又は主任教員、所属長等により作成されたもの(形式随意)
4	研究報告書	卒業論文(あるいはそれに代わるもの。執筆中の場合はその概要)がある場合には提出する。(卒業論文を提出する場合には、2,000字程度の概要(日本語で作成)を併せて提出すること。)(本学所定用紙)
5	研究計画書	大学院における研究計画(日本語で作成)を2,000字以内でまとめたもの。(本学所定の用紙)
6	写 真	正面上半身(5cm×4cm)で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
7	調 査 書	本学所定の用紙(但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可)
8	健康診断書	本学所定の用紙(保健所等公的医療機関で作成したもの。)
9	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
10	保証人届	我が国に居住する保証人(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
11	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。	
12	検 定 料	30,000円
13	返信用封筒	定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること(代理人可)。

\*郵送による出願は受理しない。

4. 選考日時及び選考方法

	9月入試	平成9年9月3日(水)		平成9年9月4日(木)
	2月入試	平成10年2月2日(月)		平成10年2月3日(火)
	コース	外国語試験	専門試験	口 述 試 験  10:00～
		10:00～12:00	13:00～15:00	
発達人間科学系	教育科学	英 語 (辞書持ち込み可)	教育科学	
	心 理 学		教育心理学・発達心理学・認知心理学・社会心理学の中から一科目選択	
	発達臨床学		発達臨床学	
	応用社会学		応用社会学	
	社会臨床論		臨床心理学・教育臨床学の中から一科目選択	
生活・開発科学系	生活政策学		六問中二問選択。内一問は必ず志望コースからの出題問題を選択すること。	
	地理環境学			
	開発・ジェンダー論			

5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

発達人間科学系 お茶の水女子大学 文教育学部 TEL 03 (5978) 5162・5163  
生活・開発科学系 お茶の水女子大学 生活科学部 TEL 03 (5978) 5722・5723

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

6. その他

本専攻は現在、東京大学大学院教育学研究科との間で、学生交流(単位互換)を行っている。

## ライフサイエンス専攻学生募集要項

### 1. 募集人員 若干名

### 2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

### 3. 出願手続

#### (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5cm×4cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
6	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
7	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
9	検 定 料	30,000円
10	返 信 用 封 筒	定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

#### (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること（代理人可）。

\* 郵送による出願は受理しない。

#### 4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成9年9月3日(水)		
2月入試	平成10年2月2日(月)		
選 考	外 国 語	専 門 科 目	口 述  14:45～ 卒業研究の内容及び将来の研究等について口述する。
	10:30～11:30	12:30～14:30	
生 活 科 学 系	英 語	生活環境学分野の問題から選択する。	
生 命 科 学 系		生命科学分野の問題から選択する。	

(注) 志願者は、必ず志望コース名を入学願書等に記入すること。

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

生 活 科 学 系 お茶の水女子大学 生活科学部 TEL 03 (5978) 5722・5723

生 命 科 学 系 お茶の水女子大学 理 学 部 TEL 03 (5978) 5287・5288

(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

## 物質科学専攻学生募集要項

### 1. 募集人員 若干名

### 2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 文部大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6) 出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」（又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者）

（注）日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

### 3. 出願手続

#### (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票 ・写真票	第一志望のコース名及び指導教官名は必ず記入し、必要がある場合は第二志望のコース名及び指導教官名を記入すること。
2	卒業証明書（卒業見込証明書）	
3	写 真	正面上半身（5 cm × 4 cm）で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙（但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可）
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙（保健所等公的医療機関で作成したもの。）
6	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
7	保証人届	我が国に居住する保証人（本学所定の用紙）。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	日本語の能力を証明するもの（例えば、日本語能力試験成績通知の写等）があれば提出すること。	
9	検 定 料	30,000円
10	返 信 用 封 筒	定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

#### (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること（代理人可）。

\* 郵送による出願は受理しない。

#### 4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成9年9月3日(水)		平成9年9月4日(木)
2月入試	平成10年2月2日(月)		平成10年2月3日(火)
選 考	物質科学に関する 基礎科目	物質科学に関する 専門科目	口 述 試 験  10 : 00～
	9 : 00～12 : 00	13 : 00～15 : 00	
	9 問中 4 問選択 (各問 1 0 0 点)	9 問中 2 問選択 (各問 1 5 0 点)	

#### 6. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
 お茶の水女子大学 理学部 TEL 03(5978)5287・5288  
 (地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

## 数 理 ・ 情 報 科 学 専 攻 学 生 募 集 要 項

### 1. 募集人員 若干名

### 2. 出願資格 下記に該当する外国人女子とする。

- (1)大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2)学校教育法第68条の2第3項の規定により学士の学位を授与された者
- (3)文部大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- (4)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (5)大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院が認めた者
- (6)出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」(又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者

(注)日本の高等学校を卒業した者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。

### 3. 出願手続

#### (1) 出願書類等

1	入学願書・受験票・写真票	
2	卒業証明書(卒業見込証明書)	
3	写 真	正面上半身(5cm×4cm)で出願前3か月以内に撮影したもの3枚を指定欄に貼付
4	調 査 書	本学所定の用紙(但し、外国の大学を卒業した者は、成績証明書でも可)
5	健 康 診 断 書	本学所定の用紙(保健所等公的医療機関で作成したもの。)
6	外国人登録済証明書又はパスポートの写し	
7	保証人届	我が国に居住する保証人(本学所定の用紙)。ただし、外国人が保証人になる場合は、外国人登録済証明書を添付すること。
8	日本語の能力を証明するもの(例えば、日本語能力試験成績通知の写等)があれば提出すること。	
9	検 定 料	30,000円
10	返 信 用 封 筒	定形郵便用封筒(長形3号)に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

#### (2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること(代理人可)。

\*郵送による出願は受理しない。

#### 4. 選考日時及び選考方法

9月入試	平成9年9月3日(水)				平成9年9月4日(木)
2月入試	平成10年2月2日(月)				平成10年2月3日(火)
選 考	一般・基礎教育科目 (微積分・線形代数)	外国語 (英語)	専門科目	口述試験	口 述 試 験  10:00～
	9:30 ～ 10:50	11:00 ～ 12:00	13:00 ～ 16:00	16:30 ～	

- 注) : (1) 専門科目の試験内容: 数学コースは必修1題(位相)、選択2題  
他コースは、3題選択  
(2) 口述試験の時間割は試験1日目に発表する。  
(3) 受験するコースと希望指導教官の所属コースが異なる場合は当該教官  
または専攻長と事前に相談することが望ましい。  
(4) 数学コースについては、「数A・数B・数C」の区分に関する希望順位  
を記入すること。

〔数A〕教 授	渡辺ヒサ子	ポテンシャル論
	真島 秀行	微分方程式論
助教授	前田ミチエ	測度論
	松崎克彦	複素解析学
〔数B〕教 授	藤原正彦	数論
助教授	榎本陽子	群論および表現論
	横川光司	代数幾何
〔数C〕教 授	小川洋輔	微分幾何
	塚田和美	微分幾何
助教授	小野 薫	幾何学

#### 5. 試験場所

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号  
お茶の水女子大学 理学部 TEL 03(5978)5287・5288  
(地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅又は都バス大塚二丁目下車)

## 平成10年度お茶の水女子大学生活科学部第3年次編入学学生募集要項

お茶の水女子大学生活科学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施している。

本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍している方々のリカレント教育や、短期大学及び高等専門学校を卒業して、更に深い専門知識を求めようとする方々へ、より高度な生活科学の専門教育の機会を提供することがこの制度の趣旨です。

### 1. 募集人員

学 科	募集人員
生活環境学科	} 10名以内
人間生活学科	

### 2. 出願資格 次のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (3) 高等専門学校を卒業した者及び平成10年3月卒業見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び修了見込みの者
- (5) 平成10年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者

### 3. 出願期間

平成9年10月23日（木）から平成9年10月29日（水）まで。（必着のこと）

### 4. 出願手続

#### (1) 出願書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（又は見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（郵便為替）
受験票返送 用封筒	本学所定の封筒に350 円切手（速達料を含む）を貼付し、志願者の住所氏名及び郵便番号を記入すること。

#### (2) 出願方法

志願者は、出願書類を一括して、本学所定の封筒を用い書留速達で郵送すること。

お茶の水女子大学生活科学部事務部

〒112 東京都文京区大塚2丁目1番1号

TEL 03（5978）5722～3

## 5. 選抜方法

学力検査（筆記試験）及び成績証明書等を総合して、第一次合格者を判定し、第一次合格者に面接試験を行って最終合格者を決定する。

### ○ 第一次試験（筆記試験）

学 科	11月12日（水）	
	試験科目	時 間
生活環境学科	英語（一般） 自然科学*	9：30～12：00
人間生活学科	英語（一般） 英語（専門分野別）	9：30～12：00

\* 物理・化学・生物に関する基礎知識

### ○ 第二次試験（面接試験） 平成9年12月3日（水）

## 6. 合格者の発表

- (1) 第一次試験合格発表 平成9年11月26日（水）までに、その合格者には、第一次選考合格通知書を、合格とならなかった者には、第一次選考結果通知書を送付する。
- (2) 第二次試験合格発表 平成9年12月11日（木）正午の予定。生活科学部掲示板に掲示するとともに合格者には、合格通知書を、合格とならなかった者には、結果通知書を送付する。

入学手続関係書類は、平成10年2月中旬に送付する。

注）電話等による可否の問い合わせには一切応じない。

## 7. 入学料及び授業料

- (1) 入 学 料 275,000 円（改定予定額）
- (2) 授業料年額 447,600 円

## 8. 修学条件

入学の時期は平成10年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学生活科学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士（生活科学）の学位を授与する。

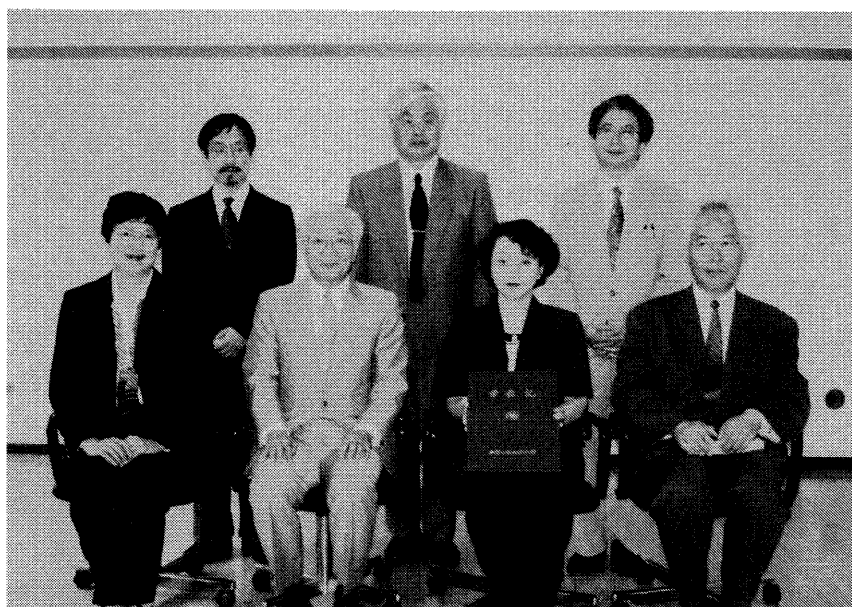
## 9. そ の 他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、390円切手を貼った角型2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。
- (3) 受験に関する問い合わせは、往復はがきによるか、返信用封筒（切手貼付）を同封し、必ず返信先を明記すること。

# ○ 学位 授 与

(論文提出によるもの)

授与番号	博士の専攻 分野の名称	氏 名	本 籍	博 士 論 文 名	授 与 年 月 日
乙第70号	博士 (人文科学)	呉 美善	大韓民国	日本語動詞の文法化に関する考察 －韓国語との対照の観点から－	平成9年6月30日



# 人 事

## 人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異 動 前 の 所 属 ・ 職 名
◇ 採 用			
9. 5. 1	藤 原 葉 子	講 師 (生活科学部)	
◇ 退 職			
9. 6. 30	齋 藤 太 一	辞 職	会計課

## ◎ 外国人研究員

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 契 約				
9. 5. 6	メルセ フランス	ジェンダー研究センター	9. 8. 30	

## ◎非 常 勤 講 師

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 採 用				
9. 5. 1	梅澤香代子	講 師 (理 学 部)	9. 9. 30	立 教 大 学 教 授
"	伊藤るり	" (ジェンダー研究センター)	10. 1. 31	
9. 5. 6	馬場由子	" (附属小学校)	9. 6. 16	武 蔵 大 学 助 教 授 三菱化学生命科学研究所主任研究員 科学技術振興事業団研究員
9. 5. 23	川村大	" (文教育学部)	9. 9. 30	
9. 6. 16	山元大輔	" (理 学 部)	"	
"	伊藤啓	" "	"	
◇ 任 用 更 新				
9. 6. 17	馬 場 由 子	講 師 (附属小学校)	9. 7. 18	

◎非常勤職員

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
◇ 採 用				
9. 5. 1	八島亜矢	ティーチング・アシスタント (理 学 部)	9. 9. 30	
"	神吉	"	"	
"	君塚	"	"	
"	内田	"	"	
"	冲村	"	"	
"	河木	"	"	
"	伊藤	"	10. 2. 28	
"	中田	"	"	
"	古川	"	"	
"	松本	"	"	
"	松永	"	"	
"	田中	"	"	
"	福島	"	"	
"	伊藤	"	"	
"	高木	"	9. 9. 30	
"	栗本	(生活科学部)	"	
"	有城	"	"	
"	吉崎	(大学院人間文化研究科)	10. 3. 31	
"	吉見	"	9. 9. 30	
"	深谷	"	"	
"	金澤	(生活科学部)	"	
"	澤野	"	"	
"	大浦	(大学院人間文化研究科)	"	
"	李環	"	"	
"	江畑	(生活科学部)	10. 3. 31	
"	前田	"	"	
"	古賀	"	"	
"	岸本	(大学院人間文化研究科)	"	
"	福永	(文教育学部)	10. 2. 28	
"	眞邊	"	"	
"	長尾	"	"	
"	荒木	"	"	
"	高山	"	"	
"	芳沢	"	"	
"	松野	"	"	
"	諸田	"	"	
"	田中	"	"	
"	池田	"	"	
"	大野	"	"	
"	遠藤	"	"	
"	斉藤	"	"	
"	小笠	"	"	
"	金屋	"	"	
"	前後	"	"	
"	喜藤	教務補佐員	10. 3. 31	
"	睦山	"	"	
9. 5. 12	山谷	"	"	
9. 6. 1	山西	リサーチ・アシスタント (生活環境研究センター)	9. 9. 30	
"	徳永	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	"	
"	大津	"	"	
"	吉川	"	"	
"	鈴木	"	"	
"	安本	"	"	
"	古賀	"	"	
"	加藤	"	"	

発令年月日	氏 名	官 職 等	任 期	備 考
9. 6. 1	津 利 枝 子	ティーチング・アシスタント (大学院人間文化研究科)	"	
"	東 智 子	"	10. 3. 31	
"	田 村 恭 子	"	9. 9. 30	
"	十 川 奈 美 子	"	"	
"	小 川 登 史 子	"	"	
"	小 紫 木 誠 子	"	"	
"	鈴 木 素 子	"	"	
"	渋谷 真 由 美 子	"	"	
"	横 山 沢 知 子	技術補佐員(研究支援推進員) (生活環境研究センター)	10. 3. 31	
"	横 山 沢 知 子	リサーチ・アシスタント (ジェンダー研究センター)	10. 2. 28	
"	早 瀬 友 美 乃 子	" (大学院人間文化研究科)	"	
"	薬 師 神 玲 子	"	"	
"	朝 枝 倫 子	"	"	
"	清 水 部 利 香 子	ティーチング・アシスタント	"	
"	舟 部 淑 子	"	9. 9. 30	
"	島 田 祥 子	"	10. 2. 28	
"	井 里 美 宣 子	"	"	
"	李 知 美 子	"	"	
"	村 尾 祐 美 子	"	"	
"	田 沢 美 也 子	"	"	
"	岡 田 美 江 子	"	"	
"	松 戸 美 英 子	"	"	
"	松 田 三 佳 子	"	"	
"	田 森 並 美 雪 子	"	"	
"	野 並 裕 紀 子	"	"	
"	佐 藤 あ や の 子	"	"	
"	佐 藤 磨 也 子	"	9. 9. 30	
"	杏 掛 莉 子	"	10. 2. 28	
"	任 三 好 理 英 代 子	事務補佐員 (学 生 課)	10. 3. 31	
"	山 下 桜 子	"	"	
"	樋 口 泰 子	" (会 計 課)	"	
"	仙 頭 和 枝 子	技術補佐員(研究支援推進員) (生活環境研究センター)	"	
9. 6. 16	金 戸 田 貞 子	教務補佐員 (生活科学部)	"	
"	佐 藤 ぬ い	"	"	
◇ 退 職				
9. 5. 19	大 原 み ち よ	事務補佐員 (会 計 課)		
9. 6. 30	梅 沢 直 美	" (文教育学部)		

# 諸 報

## ○研 修

名 称	実施日時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成9年度六大学等事務系初任職員研修 (東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京芸術大学、東京商船大学、東京水産大学、お茶の水女子大学及び学術情報センター)	平成9年 5月7日～ 5月9日	六大学等に、原則として実施期間から過去1年間に新規採用された事務系職員(行政職俸給表(一)適用者に限る)	文教育学部・総務係 高荷 敏之	東京外国語大学
平成9年度関東地区接遇研修	平成9年 5月14日～ 5月16日	国家公務員採用Ⅱ種試験又はⅢ種試験に合格し採用された職員(新採用職員は除く)で、原則として年齢28歳未満の者	会計課・管財係 石井 文弘	人事院関東事務局
平成9年度国立学校事務電算化基幹要員A研修	平成9年 6月9日～ 6月13日	行政情報化を所掌する係の長又は専門職員	入学主幹付 入学試験係長 吉原 道隆	文 部 省
平成9年度国立学校事務電算化基幹要員B研修	平成9年 6月30日～ 7月4日	行政情報化の推進を所掌する課又は係に所属し、システム設計に関する十分な知識・技術を有する者	会計課・総務係 鈴木 実	文 部 省

# ○海外渡航

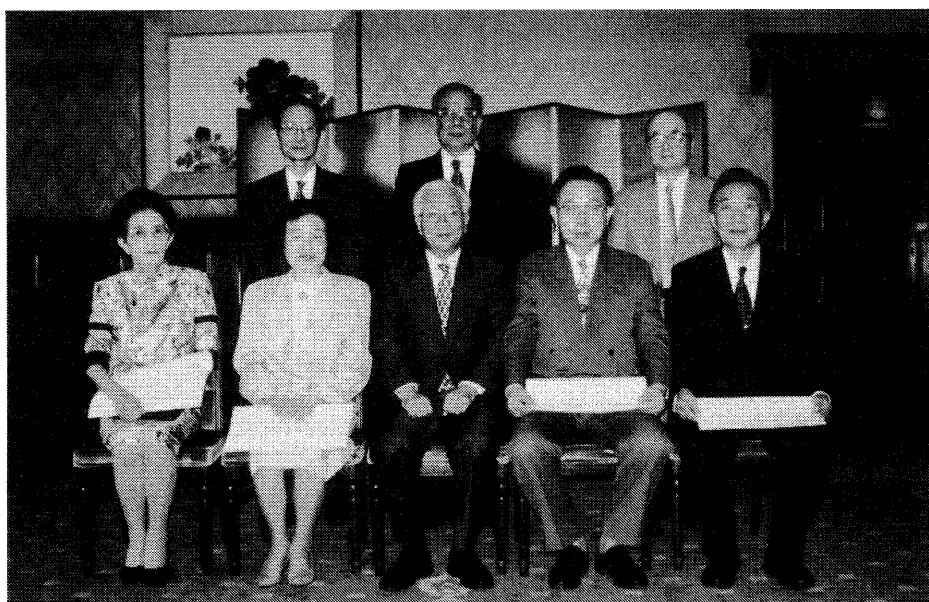
所属・職名	氏 名	渡 航 先 国	渡 航 目 的	期 間	渡航種目
文教育学部・ 助教授	林 廣 子	イタリア共和国 オーストリア共和国	音楽研究	9. 5. 2～ 9. 6. 7	海外研修
理学部・助教授	市 川 哲 彦	アメリカ合衆国	ACM SIGMOD/PODS 国際会議参加	9. 5. 10～ 9. 5. 18	海外研修
人間文化研究科・ 助手	吉 川 裕美子	ドイツ連邦共和国	ドイツにおける職業教育の現状に 関する資料収集と聞き取り調査の 実施	9. 5. 11～ 9. 5. 18	海外研修
文教育学部・教授	徳 丸 吉 彦	大 韓 民 国	アジア音楽国際会議「東洋の雅楽」 に参加及び発表	8. 5. 14～ 9. 5. 18	海外研修
人間文化研究科・ 助手	小 塩 さとみ	大 韓 民 国	第2回アジア音楽国際会議に参加 及び発表	9. 5. 14～ 9. 5. 18	海外研修
人間文化研究科・ 助教授	坂 元 章	アメリカ合衆国	アメリカ心理学会大会における研 究発表及び資料収集、研究打合せ	9. 5. 21～ 9. 5. 27	外国出張
人間文化研究科・ 助教授	出 口 哲 生	大 韓 民 国	国際会議「量子場の理論による低 次元系の物理へのアプローチ」に おいて招待講演	9. 5. 22～ 9. 5. 25	外国出張
理学部・教授	福 田 豊	オーストリア共和国・スロベ ニア共和国・ドイツ連邦共和 国・スイス連邦・イタリア共和 国・スウェーデン国	ウィーン工科大学客員教授、スモ レニッツェ国際会議講演、ス ウェーデン王立工学研究所訪問・ 研究討論	9. 5. 24～ 9. 6. 18	外国出張
理学部・教授	細 矢 治 夫	ス ペ イ ン クロアチア共和国	第7回数理化化学国際会議で講演	9. 5. 24～ 9. 6. 4	海外研修
文教育学部・教授	小 風 秀 雅	連 合 王 国	「19世紀イギリスの対日政策」に 関する資料の調査・研究	9. 5. 25～ 9. 9. 17 (帰国予定)	海外研修
文教育学部・教授	森 下 はるみ	アメリカ合衆国	ACSM(American College of Sports Medicine) 参加	9. 5. 26～ 9. 6. 5	外国出張
ジェンダー研究セ ンター・教授	原 ひろ子	タ イ 王 国	アジア工科大学・ジェンダーと開 発センターにおける「＜ジェン ダーと開発＞カリキュラム評価に 関するワークショップ」に参加	9. 5. 26～ 9. 5. 31	海外研修

所 属 ・ 職 名	氏 名	渡 航 先 国	渡 航 目 的	期 間	渡航種目
理学部・助教授	小 野 薫	ポーランド共和国 カナダ	ワルシャワのパナッハ・センター 研究所とトロントのフィールズ研 究所での研究集会に参加及び講演	9. 6. 6～ 9. 6. 29	外国出張
理学部・助教授	藤 代 一 成	ドイツ連邦共和国	Dagstuhl Seminar on Scientific Visualization にて招待講演	9. 6. 7～ 9. 6. 15	海外研修
理学部・助教授	鷹 野 景 子	アメリカ合衆国	第9回量子化学国際会議に出席及 び研究発表	9. 6. 10～ 9. 6. 16	外国出張
文教育学部・教授	天 野 正 子	中華人民共和国	北京大学での学術的交流	9. 6. 10～ 9. 6. 18	海外研修
理学部・教授	平 野 恒 夫	アメリカ合衆国	第52回オハイオ州立大学国際分子 分光学会議に出席及び研究発表	9. 6. 13～ 9. 6. 23	外国出張
生活科学部・ 助教授	畑 江 敬 子	フランス共和国	国際冷凍学会に参加、発表	9. 6. 14～ 9. 6. 23	海外研修
文教育学部・教授	内 藤 俊 史	アメリカ合衆国	Jean Piaget Society 年次シンポ ジウムにおける発表	9. 6. 18～ 9. 6. 22	海外研修
理学部・教授	太 田 隆 夫	イタリア共和国	国際会議「複雑液体の構造とダイ ナミクス」に組織委員として出席 及び講演	9. 6. 21～ 9. 7. 1 (帰国予定)	海外研修
人間文化研究科・ 助手	小 塩 さとみ	スロバキア共和国	ICTM (国際伝統音楽協議会) 第34 回世界大会参加・発表及び現地 における民族音楽調査	9. 6. 23～ 9. 7. 7 (帰国予定)	海外研修
理学部・助教授	林 正 男	アメリカ合衆国	バイオサイエンスの動向と問題の 研究	9. 6. 30～ 9. 9. 30 (帰国予定)	外国出張

# ○名誉教授の称号授与について

平成9年4月23日に下記の方に本学名誉教授の称号が授与されました。

(氏 名)	(元 官 職)
浅 井 清	文教育学部教授
酒 本 雅 之	〃
森 隆 夫	〃
高 村 幸 男	理 学 部 教 授
田 中 翠	〃
小 山 敏 子	〃
荒 川 信 彦	生活科学部教授



## 浅 井 清 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年4月14日生

略 歴 昭和25年3月 大分県立大分第一高等学校（現上野丘高校）卒業  
昭和29年3月 東京大学文学部国語国文学科卒業  
昭和31年3月 同 大学院修士課程修了  
昭和35年3月 同 大学院博士課程中退  
昭和35年4月 金沢大学法文学部講師  
昭和38年7月 同 助教授  
昭和39年4月 立教大学一般教養部助教授  
昭和42年3月 ハーバード大学客員研究員（～43・3）  
昭和45年4月 お茶の水女子大学文教育学部助教授  
同 同 大学院人文科学研究科担当  
昭和51年6月 同 大学院人間文化研究科担当  
昭和51年12月 同 文教育学部教授  
昭和58年4月 同 評議員（～60・9）併任  
昭和61年10月 同 文教育学部長（～63・9）併任  
昭和63年10月 コーネル大学客員教授（～平成元・3）  
平成3年4月 お茶の水女子大学附属図書館長（～4・10）併任  
平成9年3月 同 停年退職

平成9年4月 お茶の水女子大学名誉教授

研究実績 明治文学を中心に、新聞を核としたメディアと文学との相関関係や、純文学と大衆文学の交流等、新たな研究分野を開拓し大きな功績を残した。

著書等 共編著『近代文学評論大系1』角川書店、昭和46年

『研究資料現代日本文学』全7巻 明治書院、昭和55～56年

『日本文化総合年表』 岩波書店、平成2年

『新潮日本文学アルバム39 菊池寛』 新潮社、平成6年

『日本現代文学大事典』 明治書院、平成6年

『山本周五郎』 日本図書センター、平成7年

単著「戯作の復活－仮名垣魯文の場合－」「立教大学日本文学」昭和40年

「日本における市民精神の成立

－明治初期文学における自由の受容－」「思想」昭和41年

「明治の新聞」『明治文学全集』月報連載 筑摩書房、昭和44～58年

「『小説神髓』の周辺－坪内逍遙覚書－」「国語と国文学」昭和55年

「ジャーナリズム発展の意味

－明治三十年代前半における新聞小説－」「文学」昭和61年

「グリフィス文庫の位相」「お茶の水女子大学人文科学紀要」平成2年

「桜痴福地源一郎試論」「国語と国文学」平成5年

「島崎藤村の「歌のわかれ」』『日本文学史の発見』三省堂、平成6年

その他、共編著、論文多数

酒本雅之 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年5月14日生

略歴 昭和24年3月 第六高等学校文科卒業

昭和28年3月 岡山大学法文学部英文科卒業

昭和30年3月 東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程修了

昭和30年4月 島根大学文理学部助手

昭和33年4月 同 講師

昭和34年4月 金沢大学講師

昭和36年5月 同 助教授

昭和38年10月 お茶の水女子大学助教授

昭和41年5月 同 大学院人文科学研究科担当

昭和51年6月 同 大学院人間文科研究科担当

昭和51年12月 同 教授

昭和61年3月 文学博士（筑波大学）

昭和62年10月 お茶の水女子大学評議員

平成8年3月 同 退職

平成9年4月 同 名誉教授

研究実績 アメリカ文学、特に十九世紀「アメリカ・ルネッサンス」期の文学の研究、翻訳は、学界はもとより、専門外の人々からも、高い評価を得ている。

論文等 『アメリカ・ルネッサンス序説－エマソン、ソーロー、ホイットマン』（1969）研究社

『アメリカ・ルネッサンスの作家たち』（1974）岩波書店

『支配なき政府－ソーロー伝』（1975）国土社

『ホーソー－陰画世界への旅』（1977）冬樹社

『アメリカ文学をどう読み解くか』（1978）中教出版

『沙漠の海－メルヴィルを読む』（1985）研究社

『ことばと永遠－エミリー・ディキンソンの世界創造』（1992）研究社

「メルヴィルの世紀末」(谷口陸男編 『アメリカ文学の世紀末』)(1983) 南雲堂  
 「状況恐怖者ポウ」(大橋健三郎教授還暦記念『文学とアメリカ』)(1980) 南雲堂  
 “The Dissociation of Ideas in Whitman’s Democratic Vistas”  
 (Earl Miner, ed., English Criticism in Japan)(1972)  
 University of Tokyo Press  
 “Melville’s ‘Transcendentalism’ in the Context of His Time”  
 (K. Ohohashi, ed., Melville and Melville Studies in Japan)(1993) Greenwood Press  
 「Poe と超越」(『英語青年』1992年4月-7月)  
 「ポウ、ホーソー、エマソン」(『英語青年』1992年4月-11月)  
 W. ホイットマン『草の葉』全三冊 (1969-71) 岩波書店  
 R. W. エマソン『エマソン論文集』全二冊 (1972-73) 岩波書店

森 隆 夫 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年7月30日生

略 歴 昭和31年3月 東京大学教育学部教育行政学科卒業  
 昭和31年11月 国立教育研究所文部教官  
 昭和34年9月~36年8月 フランクフルト大学留学(DAAD、フムボルト財団留学生)  
 昭和41年2月 お茶の水女子大学文教育学部講師  
 昭和42年7月 同 助教授  
 昭和49年4月 同 教授  
 昭和50年10月 同 評議員  
 昭和52年4月 同 附属小学校長  
 昭和59年10月 同 文教育学部長  
 平成3年4月 同 大学院人間文化研究科長  
 平成9年3月 同 停年退職  
 平成9年4月 同 名誉教授

研究実績 ドイツ教育制度を中心とする比較教育学、生涯教育論、教育内容(教育課程、教科書)行政等の分野で精力的に研究を進め、非常に多くの業績をあげた。教育問題を、複眼的に把握し、その解決の方途を具体的な政策や実践的方法として提示する点を研究の特徴とし、ことに、自らの体験をふまえた一連の啓蒙的著作は、ユーモアを交えた独特かつ平易な文体を通して、多くの教育実践・経営者に多大の影響を与えた。

著 書 等 『比較教育制度論』(1968) 福村出版  
 共編著『教育経営と教育工学』(1971) ぎょうせい  
 『生涯教育と学校教育』(1974) 教育開発研究所  
 『学校と社会』(1976) 教育開発研究所  
 『現代の教育行政』(1977) 協同出版  
 『体験的学校経営論』(1979) 教育開発研究所  
 『生涯教育とは何か』(1981) 明治図書  
 『生涯学習“育自学”のすすめ』(1982) 日本経済新聞社  
 『育児のための育自学』(1984) チャイルド本社  
 『教育の自由化より自由の教育化を』(1986) ぎょうせい  
 『自己教育の限界』(1988) ぎょうせい  
 『新・生涯教育と学校教育』(1990) 教育開発研究所  
 『教育行政における法的思考と教育的思考』(上・下)(1991) 教育開発研究所  
 『生活科の基礎基本』(1991) エイデル研究所  
 『社会的望遠鏡・顕微鏡』(1992) ぎょうせい  
 『生涯発達教育論』(1995) ぎょうせい

著作集『教育の扉』（全15巻）（1992～1996）ぎょうせい  
その他論文、著書多数

高 村 幸 男 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年8月13日生

略 歴 昭和29年10月 東京大学理学部数学科卒業  
昭和35年3月 同 大学院数物系研究科数学専門課程満期退学  
昭和35年4月 熊本大学理学部講師  
昭和37年4月 早稲田大学理工学部講師  
昭和38年3月 東京大学大学院数物系研究科数学専門課程修了 理学博士（東京大学）  
昭和39年4月 早稲田大学理工学部助教  
昭和43年4月 お茶の水女子大学理学部助教  
同 大学院理学研究科担当  
昭和51年7月 同 理学部教授  
昭和53年4月  
同 大学院人間文化研究科担当  
昭和56年3月  
昭和62年10月  
同 評議員  
平成元年9月  
平成9年3月 同 理学部停年退官  
平成9年4月 同 名誉教授

研究実績 線型位相空間論においては、局所凸線型位相空間論において、時代を画する一つの専門書であったケーテの本にある20の未解決問題全てを否定的に解決されたことにより、学界で注目を集めました。また、発展方程式論においては、ヒルベルト空間における非線形準消散作用素によって支配される発展系に対する、生成定理と微分可能性定理を確立されました。この定理は、多くのこの方面の研究者に影響を与え国際的なこの方面の指導者として活躍されました。

論 文 等 Y. Kôura, Some examples on linear topological spaces, Math. Ann. 153, (1964), 150-162  
Y. Kôura and Takako Kôura, Über die Einbettung der nuklearen Räume in  $(s)^A$ , Math. Ann. 162, (1965/1966), 284-288.  
Y. Kôura, Nonlinear semi-groups in Hilbert space, J. Math. Soc. Japan 19(1967), 493-507.  
Y. Kôura, Differentiability of nonlinear semigroups, J. Math. Soc. Japan 21, (1969), 375-402.

著 書 等 高村幸男、非線形発展方程式、岩波書店、東京、（1983）、vi+191pp.（小西芳男との共著）

田 中 翠 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年4月12日生

略 歴 昭和29年3月 お茶の水女子大学理学部物理学科卒業  
昭和34年3月 東京教育大学大学院理学研究科物理専攻修了 理学博士（東京教育大学）  
昭和34年4月 同 光学研究所助手  
昭和34年11月 東京大学理学部助手  
昭和38年3月 お茶の水女子大学理学部講師  
昭和39年5月 同 大学院理学研究科担当  
昭和40年7月 同 理学部助教

昭和50年10月 お茶の水女子大学理学部教授

昭和60年10月

同 評議員

昭和62年9月

平成2年4月 同 大学院人間文化研究科担当

平成9年3月 同 理学部停年退官

平成9年4月 同 名誉教授

研究実績 酸化物磁性体について、ミクロな立場からその本質を明らかにすることを目指してこられました。特に、三角格子磁性体と呼ばれるフラストレーションが内在している複雑なスピン系の磁気的性質の解明にあたっては、メスバウア分光やミュースアールをはじめとするいろいろな実験的手法を駆使して、重要な知見を多数得ておられ、高く評価される多くの業績を残されました。

論文等 Mössbauer Study on the Magnetic Structure of  $\text{YbFe}_2\text{O}_4$ : A Two-Dimensional Antiferromagnet on a Triangular Lattice

(J. Phys. Soc. Jpn. **58**(1989)1433-1440)

M. Tanaka, H. Iwasaki and K. Siratori

Detection of Correlation between the Orientation and the Magnitude of Hyperfine Field of  $^{57}\text{Fe}$  in  $\text{YFeMnO}_4$

(Hyp. Int. **62**(1990) 169-179)

M. Tanaka, J. Iida and H. Ohi

Mössbauer Study of  $\text{Lu}_2\text{Fe}_3\text{O}_7$ : A two dimensional antiferromagnet on a triangular lattice

(Hyp. Int. **84**(1994) 217-223)

M. Tanaka and J. Iida

Mössbauer Study on a Diluted Triangular Antiferromagnet  $\text{LuFeMgO}_4$

(J. Phys. Soc. Jpn. **64**(1995) 2621-2627)

M. Tanaka, E. Himoto and Y. Todate

$\mu\text{SR}$  studies of  $\text{YFeMnO}_4$

(Hyp. Int. **97/98** (1996) 623-638)

M. Tanaka, Y. Todate, C. Natsume, K. Nishiyama and K. Nagamine

小山 敏子 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年6月10日生

略歴 昭和31年3月 お茶の水女子大学理学部数学科卒業

昭和36年3月 東京大学大学院数物系研究科数学専門課程単位修得退学

昭和36年4月 お茶の水女子大学理学部助手

1967年6月 Ph. D (ウェインステイト大学)

昭和43年4月 お茶の水女子大学理学部講師

同 大学院理学研究科担当

昭和52年11月 理学博士 (広島大学)

昭和53年4月 お茶の水女子大学理学部助教授

昭和62年4月 同 理学部教授

昭和62年10月 同 大学院人間文化研究科担当

平成5年10月

同 評議員

平成7年9月

平成9年3月 同 理学部停年退官

平成9年4月 同 名誉教授

研究実績 アーベル群、特にねじれ群の中のP群の構造について研究され、いくつかの構造定理を与えられ、国際的にも高く評価されております。最近は情報科学の基礎である、圏論、グラフ理論の研究もされております。

- 論文等 On Quasi-closed Groups and Torsion Complete Groups 1967 Bull. Soc. Math. France 95  
On Topological Methods in Abelian Groups 1967 Springer  
Colloque sur la  
Theorie des Groupes  
abéliens tenu à  
l'Université de  
Montpellier  
On Characterizations of Dedekind Domain 1974 Hiroshima Math. J. Vol. 4  
On p-indicators in Ext(Q/Z, T) 1978 Hiroshima Math. J. Vol. 8  
On Regular Graphs and the Associated Real Algebras 1993 お茶の水女子大学  
Generated by the Adjacency Matrices 自然科学報告 44

#### 荒川信彦 名誉教授略歴等

生年月日 昭和6年6月4日生

略歴 昭和31年3月 東京大学農学部農芸化学科卒業  
昭和33年1月 同 農学部助手  
昭和41年5月 お茶の水女子大学家政学部助教授  
昭和53年4月 同 家政学部教授  
昭和58年4月 同 家政学部長  
平成元年4月 同 附属図書館長  
平成3年4月 同 家政学部長  
平成4年10月 同 生活科学部長  
平成9年3月 同 停年退職  
平成9年4月 同 名誉教授

研究業績 貯蔵加工に伴う食品成分の変化、特に、筋肉タンパク質分解に関する酵素学的研究、ならびに、アスコルビン酸及びその関連化合物の生体系における生理・生化学的機能に関する研究に専心され、高く評価される多くの業績を残されました。

- 論文等 Evaluation of Urinary Pyridinoline in Healthy Adults and Patients with Rheumatoid Arthritis by an Improved High-performance Liquid Chromatographic Assay. M. Otsuka, R. Kurosaka, J.-S. Kim, S. Kawai, and N. Arakawa, J. Nutr. Sci. Vitaminol. 42(5), 485-90 (1996)  
Inhibitory Effect of Ascorbate on Cell Growth: Relation to Catalase Activity. S. Nemoto, M. Otsuka, and N. Arakawa, J. Nutr. Sci. Vitaminol. 42(2), 77-85 (1996)  
Ascorbate Indirectly Stimulates Fatty Acid Utilization in Primary Cultured Guinea Pig Hepatocytes by Enhancing Carnitine Synthesis. T.-Y. Ha, M. Otsuka and N. Arakawa J. Nutr. 124(5), 732-7 (1994)  
Role of Hydrogen Peroxide in the Inhibitory Effect of Ascorbate on Cell Growth. N. Arakawa, S. Nemoto, E. Suzuki and M. Otsuka, J. Nutr. Sci. Vitaminol. 40(2), 219-27 (1994)  
Oxygen-Sensor-Based Simple Assay of Histamine in Fish Using Purified Amine Oxydase M. Ohashi, F. Nomura, M. Suzuki, M. Otsuka, O. Adachi and N. Arakawa J. Food Sci. 59(3), 519-22 (1994)

# 日 誌

## ◇諸会議

5月6日(火) 留学生専門委員会  
 7日(水) 文教育学部教務関係事項検討委員会  
 拡大部局長会議  
 大学教員の任期制問題検討特別委員会  
 SCS導入準備委員会  
 8日(木) 文教育学部入試方法検討委員会  
 9日(金) 理学部入学者選抜方法検討委員会  
 12日(月) ジェンダー研究センター運営委員会  
 理学部自己点検・評価委員会  
 カリキュラム委員会  
 13日(火) 評価改善専門委員会  
 部局長会議  
 主任会議(生活)  
 主任会議(文教・理)  
 廃棄物の処理・再利用に関する検討委員会  
 14日(水) 教授会  
 将来構想検討委員会  
 16日(金) 学生委員会  
 20日(火) 大学教員の任期制問題検討特別委員会  
 21日(水) 共用体育施設運営委員会  
 臨時学科主任会議(理・生活)  
 代議員会  
 カリキュラム委員会  
 22日(木) 入学者選抜方法研究委員会  
 23日(金) 共通機器センター運営委員会  
 26日(月) 生活科学部情報システム委員会  
 27日(火) 拡大部局長会議  
 部局長会議  
 予算委員会  
 留学生専門委員会  
 評価改善専門委員会  
 28日(水) 事務改善研究委員会学生専門部会  
 評議会  
 生活科学部情報システム委員会  
 施設計画委員会  
 事務改善研究委員会会計専門部会  
 附属学校教育研究委員会  
 SCS導入準備委員会  
 30日(金) 課長・事務長会議  
 事務連絡協議会  
 文教育学部教務関係事項検討委員会

6月2日(月) 事務改善研究委員会学生専門部会  
 3日(火) 部局長会議  
 主任会議(生活)  
 主任会議(文教・理)  
 4日(水) 教授会  
 6日(金) 拡大部局長会議  
 広報・就職専門委員会  
 10日(火) 部局長会議  
 廃棄物の処理及び再利用に関する検討委員会  
 11日(水) 附属図書館運営委員会  
 前期・後期課程運営委員会  
 代議員会  
 評議会  
 12日(木) 公開講座委員会  
 事務改善研究委員会学生専門部会  
 SCS導入準備委員会  
 13日(金) 事務連絡協議会  
 16日(月) 生活科学部情報システム委員会  
 18日(水) 理学部PR委員会  
 文教育学部教務関係事項検討委員会  
 将来構想検討委員会  
 20日(金) 事務改善研究委員会学生専門部会  
 23日(月) 入学者選抜方法研究委員会  
 大学院問題連絡協議会  
 24日(火) ジェンダー研究センター運営委員会  
 小・中学校研究開発運営指導委員会  
 国際交流委員会留学生専門委員会  
 25日(水) 理学部附属臨海実験所運営委員会  
 自己点検・評価検討委員会  
 創立120周年募金活動専門委員会  
 附属学校教育研究委員会  
 26日(木) 理学部臨時主任会議  
 27日(金) 広報・就職専門委員会  
 30日(月) 生活科学部臨時主任会議  
 事務改善研究委員会学生専門部会  
 7月1日(火) 池田摩耶子・重奨学金審査委員会  
 レクリエーション運営委員会  
 2日(水) 入試電算処理専門委員会  
 文教育学部入試方法検討委員会  
 廃棄物処理及び再利用に関する検討委員会  
 3日(木) 課長等会議  
 4日(金) 学生委員会  
 SCS導入準備委員会

◇行事等

- 5月1日(木) 健康診断(高校)  
 2日(金) 健康診断(中学校)  
 7日(水) 国立8大学理学部事務長会議(於・金沢大学)  
 6大学等事務系初任職員研修(～9日、於・オリセン)  
 国立学校等施設整備事務連絡会議(於・東京大学)  
 8日(木) 国立8大学理学部長会議(～9日、於・金沢大学)  
 9日(金) 附属幼稚園防災訓練  
 事務職員特別研修  
 12日(月) 文部省初中教育局長附属幼稚園視察  
 15日(木) 国立大学入学者選抜研究連絡協議会(関東甲信越地区協議会)(於・埼玉大学)  
 事務職員特別研修  
 16日(金) 事業系廃棄物に関する立ち入り調査(東京都清掃局)  
 国立大学事務局長会議(於・オリセン)  
 19日(月) 学生の定期健康診断(～22日、於・保健管理センター)  
 名誉教授称号授与式  
 名誉教授懇談会  
 20日(火) 国有財産事務担当者会議  
 21日(水) 文部省共済組合主幹課長会議(於・フロラシオン青山)  
 国立大学図書館協議会(研究班合同会議)(於・東京大学)  
 男女共同参画推進連携会議(於・総理府講堂)  
 22日(木) 国立学校等経理部課長会議(～23日、於・東京医科歯科大)  
 事務職員特別研修  
 26日(月) 献血(～27日)  
 地方支分部局等予算決算関係事務研修会(於・合同庁舎)  
 27日(火) 国立大学附属図書館事務部課長会議(於・東京医科歯科大)  
 4附属校園懇親会  
 28日(水) 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会(於・東京大学)  
 29日(木) 国立大学図書館協議会理事会(於・

東京大学)

防災訓練(於・小学校)

- 30日(金) 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会(於・国立教育会館)  
 31日(土) 附属高等学校体育祭(於・附属高等学校)  
 6月2日(月) 平成10年度理学部編入学願書受付(～6日)  
 国立大学施設担当部課長会議(～3日、於・東京医科歯科大)  
 大学セミナーハウス評議会(於・アルカディア市谷)  
 東京地区大学厚生補導職員研修会運営委員会(於・東京水産大)  
 4日(水) 婦国子女教育学校の在り方に関するヒアリング(於・文部省)  
 国立大学等学生部次課長会議(於・東京医科歯科大)  
 5日(木) 国立大学入学者選抜研究協議会(～6日、於・九段会館)  
 国立学校等庶務部課長会議(～6日、於・東京医科歯科大)  
 6日(金) 防火訓練(於・小石川寮)  
 国立大学国際交流担当課長等会議(於・東京医科歯科大)  
 8日(土) 中学校体育祭  
 10日(火) モナシュ大学副学長表敬訪問  
 防災訓練(於・中学校)  
 11日(水) 婦国子女教育学級等の在り方に関するヒアリング(於・文部省)  
 12日(木) 事務職員特別研修  
 17日(火) 関東ブロック厚生補導職員研修会(於・新潟大学)  
 国立大学協会総会(於・学士会館)  
 大学入試センター試験担当課長会議(於・拓殖大学)  
 18日(水) 国立大学協会総会(於・学士会館)  
 19日(木) 国立大学協会総会(於・学士会館)  
 事務職員特別研修  
 20日(金) 国立大学協会事務連絡会議(於・学士会館)  
 21日(土) 国際学生宿舍防火訓練(於・国際学生宿)  
 23日(月) 学校図書館司書教諭講習受付(～7月11日)

- リフレッシュ教育担当課長会議（於・東京医科歯科大）
- 24日（火）国立大学図書館協議会総会（～27日、於・京都市勧業館）
- 25日（水）外国人留学生懇談会
- 26日（木）国立大学入試担当課長連絡協議会（～27日、於・メトロポリタン山形）  
事務職員特別研修
- 27日（金）男女共同参画連携推進会議（於・総理官邸）
- 28日（土）同窓連絡会総会（於・桜陰会館）
- 30日（月）国立学校等事務電算化基幹職員B研修（於・オリセン）  
学位記授与式（論文博士）
- 7月1日（火）第2回学生定期健康診断（於・保健管理センター）
- 2日（水）厚生補導研究協議会（～4日、於・オリセン）  
平成10年度理学部編入学試験
- 4日（金）茶水会総会（於・東方会館）